

第四章 港灣改良工事

第一 横濱港修築工事

(横濱土木出張所)

緒言

本工事ハ大正十年度ヨリ十九年度ニ至ル拾箇年ノ繼續事業ニシテ總工費壹千參百四拾五萬圓(内横濱市負擔額五百廿貳萬參千圓)ヲ以テ外國貿易設備、内國貿易設備、港内並航路ノ浚渫及繫船浮標増設等ヲ施行スルモノニシテ其年度割額及横濱市負擔額ヲ舉グレバ左ノ如シ

年 度	當初年 度割額			改定年 度割額			國 負 擔 額 庫	横 濱 市 負 擔 額
	工 事 費	事 務 費	計	工 事 費	事 務 費	計		
大正十 年 度	九四〇〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇 円	一〇〇〇〇〇〇 円	六四一、八〇二 円	四六、〇九三 円	六八七、八九五 円	一一〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇 円
同 十 一 年 度	九四〇〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇 円	一〇〇〇〇〇〇〇 円	六四〇、〇〇〇 円	四六〇、〇〇〇 円	六八七、八九五 円	一一〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇 円
同 十 二 年 度	一〇四〇〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇 円	一六〇〇〇〇〇〇〇 円	一〇四〇、〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇 円	一六〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇 円
同 十 三 年 度	一〇四〇〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇 円	一六〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇、〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇 円
同 十 四 年 度	一一四〇〇〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇〇 円	一七〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一四〇、〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一七〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇〇 円
同 十 五 年 度	一一四〇〇〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇〇 円	一七〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一四〇、〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一七〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇〇 円
同 十 六 年 度	一一四〇〇〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇〇 円	一七〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一四〇、〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一七〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇〇 円
同 十 七 年 度	一一四〇〇〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇〇 円	一七〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一四〇、〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一七〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇〇 円
同 十 八 年 度	一一四〇〇〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇〇 円	一七〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一四〇、〇〇〇 円	六〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一七〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇〇〇〇〇〇〇〇 円
十九 年 度	一一三八〇、〇〇〇 円	七〇〇〇〇〇〇〇 円	一七三〇、〇〇〇〇〇〇〇 円	一一三八〇、〇〇〇 円	七〇〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一七三〇、〇〇〇〇〇〇〇〇 円	一一〇七四、二五〇 円	一一〇七四、二五〇 円

種別 計	當初年度割額		改定年度割額		國庫負擔額
	工事費	事務費	工事費	事務費	
總計	一三八〇〇〇〇	六五〇〇〇〇	一三四五〇〇〇	七三八二〇〇	八三三七〇〇
					五二二三〇〇
					四

港狀並計畫大要

横濱港ハ元横濱村ト稱スル一漁村ニ過ギザリシモ安政六年六月開港以來其内外貿易ハ累年増進長足ノ進歩ヲ爲シ神戸港ト相對峙シテ帝國ノ二大門戶タリ是ヲ以テ政府ハ本港發展ノ趨勢ニ順應シテ明治廿二年度以來漸次防波堤、馴導堤及鐵棧橋ノ築造、港内浚渫、海面埋立、岸壁、物揚場ノ築造、上屋、倉庫、鐵道、道路、橋梁、起重機其他ノ陸上設備並防波堤修繕、棧橋改築等ヲ施行シ大正九年度迄ニ工費總計大約壹千八百萬圓（内横濱市負擔額貳百七拾萬圓）ノ支出シテ大ニ本港貿易ノ增進ニ資スル所アリ港灣トシテノ設備稍見ル可キモノアリト雖駿々トシテ止マザル本港ノ發展ハ早クモ是ガ不備狹隘ヲ告グルニ至レリ茲ニ於テカ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ茲ニ本工事ヲ施行スルニ至レルモノニシテ本港修築ノ沿革、現在設備ノ概要並本港内外貿易ノ趨勢ト本計畫ノ規模トノ關係等ハ擧ゲテ前年度年報ニ記載セルヲ以テ茲ニ之レヲ省略スルコト、セリ

計畫ノ大要ハ前年報告ノ計畫ニ多少ノ變更ヲ加ヘ同時ニ「メートル」法ヲ採用シ左ノ通り改定シタリ

一、外國貿易設備

變更ノ要點 地質調査ノ結果當初計畫ノ岸壁線ニ方リ非常ニ軟弱ナル地盤ヲ發見セルヲ以テ之ヲ避クル爲メ岸壁線ノ方向ヲ少シク變更スルト共ニ埋立地東端部約二百米ヲ短縮シ埋立地後方ニ於ケル船舶

水路ノ港内トノ連絡ヲ取リ尙ホ埋立地ノ幅員ハ全部百間ナリシモ之レヲ百五十米、二百五十一米及三百十二米一一ノ三段ト爲シ且百五十間ノ船溜防波堤ヲ廢シテ之ニ代ルニ繫船突堤ヲ築設シ東端部ニ於ケル岸壁延長ノ短縮ヲ補足セリ

埋立 北防波堤内外ニ亘リ面積卅三萬四千五百卅三平方米ヲ朔望平均干潮面上三米八ニ埋築スルモノニシテ延長約一千五百廿米、其幅員百五十米、二百五十一米、三百十二米一一ノ三段ヨリ成リ且神奈川寄海岸ニ平行シテ港内側ニ小突堤ヲ築設ス

岸壁及物揚場 前記埋立地ノ港内ニ面スル部分ニハ總テ外航船舶ヲ繫留シ得可キ大岸壁ヲ築造シ船溜ニ面スル部分ハ水深三米六及二米七ノ岸壁及斜面物揚場トシ解船ノ荷役ニ供シ其他ノ沿岸ハ之レヲ護岸トス其内譯左ノ如シ

物揚場		斜面物揚場		同岸		同岸		同岸		同岸		同岸		別種		朔望平均干潮面下水深		有効延長		繫留船艘數	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	計	壁	米	米	米	米	米	米
二・七	三・六	二・七	三・六	一・九	一	壁	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇	二・〇									
三・八	三・〇四	五・〇六	一・四〇九	七・〇五	三・〇九	五・二七	二・八三	五・〇九	三・〇九	一・〇九	一・〇九	一・〇九	一・〇九	一	繫留船艘數	一	一	一	一	一	一
																五萬噸級	三萬噸級	二萬噸級	一萬噸級		

種	別	朔望平均高潮面下水深	有	効	延	長	繫留船艘數
護	岸	一	一	一	一	一	一
總	計	一	一	一	一	一	一
		六六八	六六八	一、八五三	一、八五三	一、八五三	一、八五三
		三九三〇	三九三〇	三九三〇	三九三〇	三九三〇	三九三〇

荷役能力ハ繫船岸ニ於テハ一米當一箇年五百五十噸トシテ七十七萬五千噸、物揚場ニ於テハ同四百四十噸トシテ八十一萬五千噸合計百五十九萬噸ヲ取扱フコトヲ得可シ

萬五千噸、物揚場ニ於テハ同四百四十

解船溜及解船水路 小突堤ノ内側ト千若町及橋本町沿岸トヲ以テ包圍スル海面並橋本町ノ一部ヲ水深三米六ニ浚渫シ解船溜トス其面積ハ航路ヲ除キ約八萬平方米ナリトス、又埋立地背面ト在來防波堤トノ間ニハ平均幅員約七十米、長約八百廿米ノ水面ヲ存置シテ水深二米七ノ解船水路ト爲シ其兩端ニハ在來防波堤ノ一部ヲ除却シテ出入口ヲ設ケ尙新ニ延長百八十米及二百十米ノ防波堤二條ヲ増築シ以テ解船ノ出入ニ便ス

聯絡橋梁 埋立地ト千若町トノ間ニハ徑間卅六米二、幅員卅二米鐵道及公道ヲ合セノ橋梁ヲ架設ス而シテ其有効高ヲ朔望平均滿潮面上五米トス

二、內國貿易設備

變更ノ要點 山内町地先埋立ノ一部ヲ變更シ淺野造船所トノ間隔約七十八米五ノ水面ヲ存置シ以テ埋立地解荷役ノ便ヲ計ラントス但シ該水面タルヤ地盤ノ關係上潛函製造工場用地トシテ他ニ求ムルヲ得ザル好適ノ箇所ナルヲ以テ本修築工事施行中ハ假ニ其一部ヲ埋築シ存置水面ヲ冊五米ニ止メントス

埋立表高島町地先ニ於テ面積六萬二千二百卅八平方米、山内町地先ニ於テ同四萬九千九百十一平方米、合計十一萬二千百四十九平方米ヲ朔望平均干潮面上三米四八ニ埋築ス。 岸壁及物揚場 各埋立地ノ前面ニハ何レモ朔望平均干潮面下水深七米三ノ岸壁ヲ築造シ三千噸級汽船ノ接岸荷役ニ供シ其他ノ沿岸ハ水深二米七ノ岸壁及物揚場並護岸トス其内譯左ノ如シ

荷役能力ハ繫船岸及物揚場一箇年一米當リ夫々五百五十噸及四百四十噸トシテ合計一箇年九十萬七千噸ヲ取扱フコトヲ得ベシ

解船溜 表高島町地先埋立地ノ背面ト在來海岸トノ間及山内町地先埋立地ト淺野造船所埋立地トノ間ハ其沿岸ヲ解船ノ荷役ニ供スルト共ニ解船ノ船溜ニ充ツ

三、浚 漂

浚漂部計畫ハ岸壁ノ水深其他各軍備ト相端ツテ港内ヲ數區ニ分割シ其水深ヲ七米三乃至十二米トシ且港外ニ於テ幅員二百廿米、長一千八百米ノ航路ヲ水深十二米ニ浚渫ス、其他船溜等ノ浚渫ハ聯絡橋梁ノ南北ニ於ケル部分ヲ水深三米六、其他ハ之ヲ水深二米七トス其面積内譯左ノ如シ

種別	計畫水深朔望平均干潮面下						面積 （平方メートル）
	波防	波防	堤同	堤同	堤同	堤同	
（一部堤外）							四〇二、六〇〇
同							四一二、四〇〇
同							一、四〇五、〇〇〇
同							一八二、〇〇〇
同							九四三、〇〇〇
同							六三六、〇〇〇
同							一六二、〇〇〇
同							六〇、〇〇〇
計							四、二〇三、〇〇〇
總							

浚漂豫定總土量約六百四十九萬立方米ナリトス

四、繫船浮標

現在港内ノ繫船浮標ハ僅ニ廿二箇ニ過ギズ近時船舶ノ出入激増シ浮標増設ノ必要ヲ痛切ニ感ズルヲ以テ更ニ一萬噸級船舶用二箇、五千噸級船舶用四箇、三千噸級船舶用十二箇、合計十八箇ヲ設置シテ船舶ノ安全ト水面ノ利用増達トヲ圖ラントス

五、修築費豫算

前述ノ計畫變更ニ伴ヒ豫算額内譯ヲ左ノ通り變更セリ

事務		工事						費用	
計	總	岸壁及護岸費	埋立費	浚防費	橋梁費	浚船費	營業雜費	浮標費	浚渫費
事務費	六八二二〇〇〇	三二一〇〇〦〇	三二一八〇〦〇	四一〇〇〦〇	一三二八〇〦〇	一、三二二〇〦〇	一、三二二〇〦〇	一、三二二〇〦〇	一、三二二〇〦〇
船舶及機械費	六四八二〇〇〇	三五九、三八三	二二〇、一四〇	二二九、八〇〇	一、六〇、〇〦〇	二八七九、八〇〇	二三八、三〇〇	二、九五〇、〇〦〇	一、五六、七四〇
繕修費	三三〇、〇〦〇	六、四八二、〇〦〇	七三六、一〇〇	七三六、一〇〇	一、六〇、〇〦〇	五四一、七四三	一、三二八〇〦〇	一、三二八〇〦〇	一、三二八〇〦〇
計	六八二二〇〇〇	三二一〇　〦〇	三二一八〇〦〇	四一〇〇〦〦	一、六〇、〇〦〦	一、三二二〇〦〦	一、三二二〇〦〦	一、三二二〇〦〦	一、三二二〇〦〦
外國貿易設備									
内國貿易設備									
浚渫費									
繫船浮標費									
合計									

施工狀況

本年度ハ事業第二年度ニシテ主ナル工事ハ前年度末施行シ來レル浚渫工事及埋立工事ノ岸壁工事施行方針ノ確立ト共ニ之ニ要スル工場設備及諸機械ノ購入並一般準備工事ヲ施行セリ
浚渫工事 鋤簾式浚渫椿號中途ヨリ清水港修築工事へ轉用浮島丸(新造船本年度竣工)菖蒲號、搔揚式浚渫

船龍神(新造船本年度竣工)並「プリストマン」式浚渫船ヲ使用シ水深十一米、九米及七米ノ三區域ヲ浚渫ス其浚渫土量廿六萬一千四百立米、起工以來ノ累計六十七萬六百立米ナリトス而シテ浚渫土砂ハ總テ土運船ニ搭載シ埋立豫定地唧筒船前及港外土捨場(港口ヨリ約三浬六四)ニ運搬投棄セリ又碎岩工事ハ浚渫工事ノ一部トシテ施行シタルモノニシテ「ロブニッズ」式碎岩船一艘ヲ使用シ浚渫區域内海底土丹岩盤ヲ破碎ス本年度ノ碎岩量ニ萬三千二百卅二立米、累計七萬三千五百四十八立米ナリトス

埋立工事 潛函製造工場敷地トシテ他ニ適當ナル土地無キニ依リ内國貿易設備埋立豫定地タル山内町地先面積約三萬五千八百平方米ヲ埋立ツルコト、シ前年度ノ終期ニ工事ニ著手シ本年度迄ニ約零割六步四厘通ヲ竣工セリ其工法ハ埋立豫定地ノ周圍ニ浚渫土丹岩ヲ利用シテ土留堤ヲ築造シ卿筒式浚渫船龍王(新造船本年度竣工)ヲ以テ其前面ニ投棄セル浚渫土砂ヲ排送シテ埋立タリ

地質調査 前年度來引續キ施行セルモノニシテ本年度ニ於テ十一箇所ヲ調査シ前年度ノ分ヲ合セ合計九十二箇所ニシテ豫定箇所全部ヲ完了セリ

工場設備工事 潜函製造工場設備トシテ本年度中ニ著手シタル工事ハ鐵道省高島驛構内側線敷設工事(工事ハ鐵道省ニ委托セリ)工場敷地内専用鐵道敷設工事並造函用乾船渠築造工事ノ内假締切工事及浚渫工事等ニシテ設備機械類トシテハ混泥土混合機、混泥土捲揚塔(ガイデリック)起重機、電動機、電動捲揚機、渦巻ポンプ六十封度、卅封度、十二封度、九封度ノ各種軌條、轉車臺、土運車等工事用機械ノ大部分ヲ購入シ、メント倉庫一棟ヲ建築セリ其他修築工場用トシテ倉庫二棟及自記檢潮器室等ヲ建設セリ

機械工場設備ニ於テハ電力設備ノ増設、作工用機械増置並木工場、製罐工場ノ増築等トス
船舶新造 本年度竣工ノ主ナルモノハ六立方碼搔揚式浚渫船龍神、四百馬力唧筒式浚渫船龍王、自動艇松

風(中古購入)「プリストマン」式浚渫船一艘、「プリストマン」式浚渫機臺船一艘、廿噸積木造材料運搬船四艘等ナリトス

繫船浮標 港内大型汽船ノ繫留不便ヲ緩和スル爲メ本年度ニ於テ一萬噸級船舶繫留用浮標ノ標體及鐵鎖各二基分ヲ購入シ之ニ附屬ス可キ沈錘及錨ヲ契約セリ

横濱港修築工事ノ本年度竣工額ハ百拾萬壹千五百五拾九圓、起工以來ノ累計百七拾參萬貳百七拾貳圓ニシテ總工費壹千貳百七拾貳萬壹千八百圓ニ對シ一割四分ノ竣工ニ當ル其工事竣工表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣工額		本年度竣工額		合計
	數量	金額	數量	金額	
埋立	五二八一 立坪	一〇〇三〇 円	一六九、三九二 立坪	三三、八四八 円	
浚渫	四〇九、二〇〇 立坪	一六一、四〇〇 立坪	二二二、六八九 立坪	三五、一七一 立坪	
浮船	一五、六四六 立坪	七九三、九七四 立坪	一七四、四七二 立坪	〇・〇六 立坪	
營業雜船	四九、四六九 立坪	七六、五三七 立坪	二二六、二一九 立坪	〇・一七 立坪	
及機械	六三八、七一三 立坪	六七〇、六〇〇 立坪	三六、二三二 立坪	〇・〇九 立坪	
費	二一〇、一五五九 立坪	一七三〇、二七二 立坪	一七三〇、二七二 立坪	〇・一四 立坪	
總計	六三八、七一三 立坪	一七三〇、二七二 立坪	一七三〇、二七二 立坪	〇・一四 立坪	

第二 清水港修築工事

(横濱土木出張所)

緒言

清水港ハ近時港勢ノ發展顯著ナルニ拘ラズ其設備頗ル不完全ニシテ貨物取扱上不利不便尠カラズ之ガ改修ハ頗ル急務ニ屬ス是ヲ以テ靜岡縣ハ本港修築ノ計畫ヲ樹テ大正十年度ヨリ同十五年度ニ至ル六箇年繼續事業トシテ總工費五百五拾萬圓ヲ豫算シ其二分ノ一ノ國庫補助ヲ受ケ同時ニ明治卅年法律第卅七號ニ依リ國ニ於テ事業ヲ直接施行スルコト、ナリシガ大正十一年ニ至リ靜岡縣ハ追加工事トシテ港内三保村地先ノ海面十五萬四千六百餘坪ヲ埋立テ工費六拾七萬七千圓ノ縣費支辨ヲ以テ施行ノ事ヲ申請シ遂ニ之ガ決定ヲ見タレバ總工費豫算ハ六百拾七萬七千圓ニ改マリ内工事費五百七拾八萬七千圓、事務費ハ卅九萬圓ナリ而シテ本工事ハ大正十五年度竣工ノ豫定ナリシガ偶政府ノ財政緊縮ニ方リ同十六年度迄一箇年間延期ノ事トナレリ

港灣狀況

清水港ノ沿革 清水港ハ本邦東海岸駿河灣内ニ在リテ太平洋航路ノ樞要地ニ衝ツ横濱、神戸兩港ノ間ニ介在シテ東海道鐵道ニ沿ヒ能ク海陸ノ聯絡ヲ保ツコトヲ得可ク其地形トシテハ三保半島ニ圍繞セラレ港内廣闊波浪常ニ平穩ニシテ水深ク海底ノ地質ハ泥砂ニシテ船舶ノ錨定極テ安全ナル天然ノ良港ナリ本港ハ元和元年徳川家康豊臣氏ト兵ヲ交ユルニ及ビ艦船ヲ本港ヨリ大阪ニ廻航シ兵器食糧ヲ送ル當時町民最モ輸送ニ昂ム功ニ因リテ徳川氏保護政策ノ恩惠ヲ受ケ夙ニ海運ノ隆盛ヲ來シ爾來沿岸貿易港トシテハ有數ノ港灣ナリシガ明治廿九年ニ至リ開港外外國貿易港ニ關スル規定發布セラル、ヤ港ノ有志

者機失フ可カラズト爲シ蹶起相協力シテ縣會ト共ニ政府ニ建議スル所アリ遂ニ其望ヲ達シ明治卅六年六月開港外外國貿易港ニ指定セラル、ニ至リ越テ卅二年八月更ニ開港場ニ指定セラレタリ

既往ニ於ケル清水港修築工事 清水港ニ於ケル從來ノ設備トシテハ更ニ見ル可キモノ無ク明治十一年中ノ築造ニ係ル清水波止場アリ舊問屋即チ當時ノ回漕業者ノ發意ニ基キ完成セルモノナリ其後明治四十三年度ヨリ大正二年度ニ至ル四箇年間ニ亘リ工費總額卅萬七千八百六拾貳圓ヲ以テ縣ニ於テ修築工事ヲ實施セリ今其大要ヲ舉グレバ清水波止場ノ西北ニ當ル海岸ニ沿ヒ水面積約一萬八千五百坪ノ船入場ヲ設ケ水深干潮面下七尺ニ浚渫シ延長三百四十八間ノ物揚場ヲ築造シ又從來ノ江尻船入場ニ改修ヲ加ヘ其面積ヲ三千二百卅八坪トシ新ニ物揚場延長百卅間ヲ設ケ水深ヲ七尺トシ而シテ清水船入場ヨリ江尻船入場ニ至ル海岸ニ沿ヒ總面積五萬一千六十一坪ノ埋立ヲ施行セリ

年	外國貿易	內國貿易	合計
明治四十四年	四八、八四〇	二六四、二五四	三一三、〇九四
明治四十五年	五六、六五九	二六八、三〇九	三二四、九六八
明治四十六年	六五、五二六	二九七、二一二	三六三、七三八
明治四十七年	六一、〇三五	二六一、〇二九	三二二、〇六四
明治四十八年	五七、五一二	三一〇、六〇六	三六八、一一八
明治四十九年	七七、五九九	二八四、一五一	三六一、七五〇
明治五十一年	六二、三一四	二九三、八四九	三五六、一六三
明治五十二年	九五、一五一	三一、一五六	四〇六、三〇七

右ノ如ク本港ノ内外貿易ハ年ヲ逐フテ發展シ平均五箇年間ノ増進率ハ外國貿易ハ約三割八分、内國貿易ハ二割五歩ニ達シ集散貨物ノ増加ニ伴ヒ船舶ノ出入モ亦漸次增加セリ今船舶出入港ヲ調査スルニ

年	次	入	港	出	港
大正	艘數	噸數	大	艘數	噸數
十九	八	八三	二三五、二九八	七三	二二三、九八四
十八	七	八四	二二四、九七三	六七	二一八、二九九
十六	六	八四	三六四、四一二	五七	二一〇
十五	同	一三九	四二〇、一六六	三七	一一九
十四	同	一三三	五七八、二一九	七〇	一一九
十三	同	一五〇	八四、一六八八	七六四、二九九	五六三、七五三
十二	同	一八五		七六四、二九九	四〇四、〇七八
十一	同			七六四、二九九	三四九、五一五
十	大			七六四、二九九	二二八、二九九
九年	正			七六四、二九九	二二三、九八四
八年	同			七六四、二九九	二二四、九七三
七年	同			七六四、二九九	三六四、四一二
六年	同			七六四、二九九	四二〇、一六六
五年	同			七六四、二九九	五七八、二一九
四年	同			七六四、二九九	八四、一六八八
三年	同			七六四、二九九	一三三
二年	同			七六四、二九九	一五〇
一年	大			七六四、二九九	一八五

又縣下産業ノ狀況ヲ見ルニ東富士、駿東地方ノ製紙、紡績、靜岡市ノ製茶、濱松市ノ木綿織物ヲ主トシ縣下各地方ノ工業製產額大正八年ニハ一億八千萬圓ニ達シ尙益發展ノ趨勢ヲ示シ且近時豊富ナル縣下發電水力ノ計畫ハ五十餘萬馬力ニ達シ本港附近各種工業ノ勃興ヲ促スノ傾向ヲ有シ加フルニ近ク富士身延ノ

中央線聯絡ハ甲信二州ノ物資ヲ本港ニ吸收スルニ至ル可ク本港ハ將來益發展スルノ氣運ヲ示シ來レリ翻テ本港ニ於ケル設備ヲ見ルニ清水船渠及舊船渠ノ物揚場總延長四百九十三間ニ達スト雖モ其設備不完全ニシテ十分ノ利用ヲ爲スコト能ハズ而シテ本港ニ入港スル外國汽船ハ主ニ米國航路ノ大型船ニシテ滯船期間ノ短縮ハ切實ニ其必要ヲ感ズルニ拘ハラズ常ニ遠キ沖合ニ碇泊シ到底荷役ノ敏活ヲ期スル能ハザル而已ナラズ貨物取扱上常ニ不利不便ヲ感ズルコト甚大ナリ又其他ノ入港船舶ニ於テモ常ニ同様ノ情態ニ在ルヲ以テ今日ノ儘ニテハ近時内外貿易發展ノ趨勢ニ順應スル能ハズ茲ニ本修築ノ成立ヲ見ルニ至レルモノナリ

計畫大要

清水波止場ト巴川トノ間延長三百四十間ノ沿岸ヲ幅六十間ニ埋立テ以テ港灣設備地ニ供ス其前面ニハ岸壁朔望平均干潮面下水深卅五尺ノ箇所百十間、同廿八尺ノ箇所百間、同廿四尺ノ箇所百卅間ヲ築造シ其前面ヲ水深卅尺、廿八尺、廿四尺ニ浚渫シ二萬噸級汽船一艘、八千噸級汽船一艘及三千噸級汽船二艘ノ同時接岸荷役ニ便セントス

巴川以南ノ沿岸延長五百七十間、幅員平均百四十間ヲ埋立テ港灣設備地及工業用地ニ供セントス

三保村地先ノ海面十五萬四千六百餘坪ヲ埋立テ商工業用地トシテ港灣ノ利用發展ニ資セントス

浚渫ノ箇所及水深ハ差當リ卅五尺岩壁前面及航路幅百八十間乃至二百五十間ヲ水深卅尺ニ廿八尺、岩壁前面幅百八十間ヲ廿八尺ニ廿四尺、岸壁前面幅百八十間ヲ水深廿四尺ニ浚渫セントス而シテ漁船ノ船溜ニ便センガ爲ニ巴川下流清水湊橋以下河口ニ至ル延長五百間ヲ幅廿間、水深六尺ニ浚渫ス

本工事費ノ豫算内譯ヲ示セバ左ノ如シ

種	別	金額
岩壁及護岸費	浚渫費	一、四四六、一四〇 円
工事費	埋立費	一、五七〇、〇〇〇
船舶及機械費	營繕費	一、六三三、一九五
工事費	雜費	五、七八七、〇〇〇
工事費	計	一一二、二六五
土地收用費	計	三〇四、九〇〇
事務費	計	三九〇、〇〇〇
總費	計	六、一七七、〇〇〇

施工狀況

本年度ハ前年度ニ引續キ準備工事ノ一部ヲ施行シ且新ニ浚渫工事ヲ起セリ此工事費合計七拾七萬貳千百四拾七圓ナリ

準備工事トシテハ修築事務所、機械工場、機械工場事務室、物置、セメント倉庫、油倉庫、見張小屋ヲ建築シ又清
水船渠内ニ棧橋ヲ新設セリ

大斜路及小斜路設備工事ハ基礎工事ノ一部分ヲ施行シ以テ次年度ニ移レリ浚渫工事ハ浚渫船草薙號、椿
號、富士號ノ三艘ヲ使用シ土砂十四萬二千五百丹ニ立方米ヲ浚渫セリ土砂運搬ハ曳船二艘、土運船百廿立
方米積三艘、四十二立方米積二艘ヲ使用シ將來埋立ニ利用スル目的ヲ以テ一部ヲ港内三保、貝島附近ニ投
棄シ其他ハ真崎沖ニ捨土セリ

浚渫船椿號ハ本年八月暴風雨ノ際日本郵船株式會社遠江丸ノ接觸ニ依リ坐沈セシメラレ引卸ノ爲メ約
二箇月ヲ要シ工事上支障ヲ來シタリ

本年度清水修築工事ノ竣工高ハ百拾貳萬八千六百四拾七圓ニシテ起工以來ノ累計ハ百四拾五萬九千七百九拾壹圓ナリ之ヲ總工費豫算額五百七拾八萬七千圓ニ比スレバ二割五步ノ竣工ナリトス其工事竣工表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣工高			本年度竣工高			合計
	數量	金額	単位	數量	金額	単位	
浚營費	一七三八	一四二、五三三	方米	二八九、六〇七	四一、九五一	方米	三三一一四四
浚繕費	一七三八	一四二、五三三	方米	二八九、六〇七	四一、九五一	方米	三三一一四四
船舶費	二〇七九七	二二九、三三一	坪	二七、六一四	一九、五〇七	坪	一九、五〇七
土雜費	三五、七八二	一〇一〇、六〇七	坪	三〇八、八三八	一〇〇四六、三八九	坪	一〇〇四六、三八九
船地費	四二、九三	二二九、五九三	坪	三一、九〇七	〇・三〇七〇六	坪	〇・三〇七〇六
買收費	一、二二八、六四七	一、四五九、七九一	坪	〇・二八	〇・一〇一	坪	〇・一〇一
總計	二〇七九七	三三一、一四四	坪	〇・二五	〇・六五	坪	〇・六五

第三 鹽釜港修築工事

(仙臺土木出張所)

緒　　言

本工事ハ大正元年十一月宮城縣ニ於テ修築工事施行ノ認可ヲ得起業シタルモノニシテ總工費參百四拾五萬圓(内國庫補助百七拾貳萬五千圓)ヲ以テ大正三年度ヨリ工事ヲ實施中ナリシガ大正六年度ヨリ本省ニ於テ直接施行スルコト、ナリ即チ同年度ヨリ同十一年度ニ至ル六箇年ノ繼續事業ニシテ總豫算貳百九拾六萬參千圓(内工費貳百八拾四萬五千貳百圓、俸給及事務費拾壹萬七千八百圓)ヲ以テ施工額トス但シ本省ノ直接施行ハ大正六年八月以降ナリ

港狀並計畫大要

鹽釜港ハ仙臺市ノ東方四里松島灣ノ西南隅ニ在リ西北南ノ三面ハ殆ド山ヲ以テ圍繞セラレ僅ニ東方松島灣ニ面ス港内水面狹ク市街地積モ亦小ナリト雖本港ハ古來水陸交通ノ衝ニ當リ鐵道及運河ノ便ヲ有シ水陸ノ聯絡稍良好ナリトス港内四時平穩ナルモ水深頗ル淺ク又松島灣ハ背後ニ山脈ヲ負ヒ島嶼前面ニ連リ四時風波ノ虞無キモ灣内亦淺クシテ孰レモ大船ヲ入ルハニ足ラズ松島灣ト外海トヲ聯絡スル水道ニ四アリ内代ヶ崎水道ヲ以テ主要ナルモノトス代ヶ崎ヲ出デ東南約二浬ニシテ石濱鋪地アリ水深クシテ大船ノ碇泊ニ適ス今修築工事ノ大體ヲ説明スレバ石濱鋪地ノ入口ヲ港口ト爲シ其左右ニ南北兩防波堤ヲ築キ以テ大洋ヨリ來ル風浪ニ對シテ代ヶ崎以東ノ水面ヲ掩護シ同鋪地ノ碇泊及船舶ノ航行ヲ安全ナラシメ併テ航路ノ埋沒ヲ防禦ス而シテ南防波堤ハ延長一千百廿五間、北防波堤ハ同四百卅五間、港口幅ハ三百間ナリ、航路ハ底幅四十間、延長二千三百四十間、兩法五割、深最大干潮面以下十五尺ニシテ港口ヨ

リ殆ド一直線ニ代ケ崎ニ至リ少ク折レテ内港泊地ニ達セシム
内港泊地ハ埋立地ニ面シテ水面積約十萬坪ヲ有ス之ヲ最大干潮面以下十五尺ト六尺ニ浚渫ス

埋立地ハ現在ノ鐵道用地ノ東方ニ築造スルモノニシテ其面積約十六萬坪其高ハ朔望平均滿潮面以上五
尺五寸(最大干潮面上十二尺二寸)トス其東方ニ濕船渠、貯溜及貯木場ヲ設ク

埋立地ノ沿岸西方ハ魚類處理場、上屋、倉庫敷地ニ充テ其東方ニハ薪炭、木材等ノ荷揚場ヲ設ケ鐵道ノ聯絡
ヲ期スルト共ニ埋立地區内ニハ一條ノ水路ヲ導キ各工場敷地ヘ水運ノ便ヲ圖ラントス其幅十間乃至廿
間ナリ

埋立地ノ道路ハ幅七間乃至十間トシ縱横ニ築設シテ航通ノ便ヲ圖ルモノトス
要スルニ本計畫ハ新ニ十六萬餘坪ノ市街地及倉庫地ヲ埋築シ延長約一千間ノ荷揚場ヲ建設シテ一箇年
卅萬餘噸ノ貨物ヲ處置シ得ベカラシム而シテ内港ニ出入シ得ル船舶ハ差當リ一千噸内外ノ小型汽船ニ
止メ大型汽船ハ其碇繫場トシテ石濱錨地ヲ使用セントスルニ在リ

施工狀況

鹽釜港修築工事ハ大正六年度内務省所管ニ移リシヨリ以來航路ノ浚渫ヲ急ギ之ト同時ニ内港ニ面スル
埋立地ノ完成ニ力ヲ注ギタリ浚渫工事ハ本年度ニ至リ内港主要部ノ大部分ヲ竣功シ航路モ次第ニ進行
シテ今ヤ主トシテ代ケ崎ノ砂洲開鑿中ナリ埋立地ハ浚渫土砂ヲ排砂船ニ依リ吸上げ下埋ヲ爲ス部分ハ
大體竣功セルヲ以テ附近ノ岩山ヨリ採掘セシ碎岩ヲ用ヒ上均シヲ爲シ計畫高ニ仕上グルト共ニ傍ラ道
路ヲ築造シツ、アルナリ此他埋立地内ノ運河並ニ貞山堀ニ通ズル水路掘鑿工事ハ引續キ施行中ニ屬ス
船舶繫留地ノ護岸工事ハ地盤最モ軟弱ニシテ埋立地ノ沈下甚シク未ダ著手ノ期ニ至ラズト雖モ其沈下

部分ニハ絶ヘズ碎岩ヲ補充シテ漸次地盤ノ動搖靜止ヲ待チツ、アリタルガ日ヲ逐フテ安定狀態ニ移ルヲ認メタレバ近々起工ノ運ビニ至ルベシ外港花淵ニ施行中ノ防波堤工事ハ未ダ捲々シク進工ノ氣運ニ至ラズ僅ニ根元ノ基礎捨石ヲ爲シツ、アルノミナリ鹽釜港修築工事本年度ノ竣功高ハ五拾貳萬百圓、起工以來ノ累計ハ貳百廿貳萬參千七百九拾八圓ニシテ工費總豫算額貳百八拾四萬五千貳百圓ニ對シ七割八分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中前年度迄竣功高金額欄ニ於テ前回年報ト差違アルハ訂正ノ報告アリシニ因ル

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功步合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚渫	二一四、四六一 立標	一六九、八四八 円	五〇九、五三三 立標	二〇九、〇八〇 円	二六四、五四一 立標	六三六、二五八 円	○・八〇 割分
埋設	二六八、五九三 立標	一五二、九八 八二二、一四	二二〇、九九 八、三七二 箇所	一九、四二七 一九、四二七	一九、四二七 一九、四二七	○・〇二	
護道	二二四、四六一 立標	三〇二、〇五三 立標	三〇二、〇五三 立標	○・〇二			
航路	一六三、五二四 一六三、五二四	三〇、九五〇 五、七六四	三〇、九五〇 五、七六四	○・三〇			
土工	一七八、一五〇 三〇、七二六	五、七六四 三五、三五四	五、七六四 三五、三五四	○・六二			
雜費	一七五、九六〇 五三、六〇八	一〇一、一一七 八、四七七	一〇一、一一七 八、四七七	○・〇二			
營業費							
船料費							
船舶費							
土地費							
機械費							
收買費							
工程費							

種別 計	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計
	數量	金額	數量	金額	
二七〇三六九八四			五二〇一〇〇四		三二三三五七九八四
○七八	百分				步竣合功

第四 新潟港修築工事

(新潟土木出張所)

緒言

本工事ハ新潟市ノ起業ニシテ信濃川改修工事ニ接續セル港内ノ浚渫ト右岸栗ノ木川ト新川トノ間ヲ埋築シテ護岸埠頭等ヲ施設シ三千噸級以下ノ船舶繫留ニ便セシムルノ計畫ヲ立テ大正四年度ヨリ市ニ於テ施工シ來タリシガ大正六年七月ヨリ明治卅年法律第卅七號第一條ニ依リ五箇年繼續事業トシ工費百九萬貳千八百四拾八圓ヲ以テ内務省ニ於テ直接施行スルコト、ナリ銳意工事ノ進捗ヲ計リシモ財界ノ打撃ニ因リ物價勞銀昇騰シ豫算ニ多額ノ不足ヲ生ジタル爲メ大正九年十月百九萬六千四百拾五圓餘ノ増額ト施工年限ヲ三箇年延長方ヲ稟請セシ處本年四月百六萬六千百七圓ノ増額認可ヲ受ケ總工費豫算貳百拾五萬八千九百五拾五圓ヲ以テ大正十三年度迄ニ竣工セシムルコト、ナレリ

港狀並計畫大要

新潟港ハ信濃川河口ニ位スル河港ニシテ越後大平野ノ咽喉ニ衝リ信越線、磐越線、越後鐵道線及近ク完成セントスル羽越線、上越線ノ諸鐵道ニ依リテ各地ト聯絡シ對岸ニ西比利亞、滿洲、朝鮮ヲ控ヘ我國中部及北陸ノ貨物集散ニ任ズ可キ日本海沿岸ノ一要港ナリ然ルニ本港ハ夙ニ帝國五港ノ一ニ列スト雖モ河流ノ變遷ト砂ノ流下トニ依リ河口水淺ク小型船舶ノ外ハ港内ニ出入スルヲ得ズ外海又船舶ノ碇繫並荷役ニ頗ル不便ニシテ經濟上ノ損失鮮カラズ從テ本港ノ發展ヲ阻害スルコト甚シ政府ハ明治四十年信濃川改修大河津分水工事及河口改修工事ノ工ヲ起シ近ク其竣功ヲ見ントス爾來河口ノ水深ハ概ね廿五尺ヲ保ツ可ク船舶ノ出入安全ナルニ至ル可キヲ以テ此秋ニ際シ内港ノ設備ヲ完全ニシ水陸ノ聯絡ヲ遺憾ナカ

ラシメ以テ港灣ノ運用ヲ充分ナラシメントスルモノナリ本工事ハ信濃川河口改修工事浚渫區域ニ接続シテ港内ヲ水深廿五尺、十八尺、十尺ニ浚渫（浚渫面積廿三萬一千坪）シ三千噸級以下ノ船舶ノ出入ニ便シ右岸栗ノ木川ト新川トノ間ニ幅平均九十六間三分、延長四百五十六間七分、面積四萬四千坪ノ埋立ヲ爲シ其護岸ハ水深十尺ノ物揚場トシ其中央及北部ノ二箇所ヨリ埠頭ヲ突出セシム北埠頭ハ新川ニ沿ヒ之ト並行シテ築設シ長二百五十間、幅七十間、面積一萬七千五百坪ニシテ其護岸ハ南岸延長二百五十間ノ内先端百五十間ヲ水深廿五尺ノ岸壁トシ残百間及頭部ヲ水深十尺ノ物揚場トス、中央埠頭ハ埋立地ノ中央部ヨリ北埠頭ニ並行シテ築設シ長百七十五間、幅六十間、面積一萬五百坪ニシテ北埠頭ト相對シテ幅員百十六間七分ノ船渠ヲ擁シ頭部及北岸ハ水深廿五尺、南岸ハ水深十八尺ノ岸壁トシ北岸ニハ上屋二棟、南岸ニハ上屋一棟ヲ建設シ其前後ニハ軌道ヲ敷設シ以テ船車ノ聯絡ニ便ナラシム埋立地總面積ハ七萬二千坪ナリ

施 工 狀 況

本年度施行セルハ浚渫、埋立、物揚場、護岸、繫船岸等ノ工事ニシテ左ニ其概要ヲ述ベ

浚渫工事

本工事ハ唧筒式浚渫船櫻島丸、浦賀丸、神通丸及「バケット」式浚渫船榛名號ノ四隻ヲ用ヒテ浚渫區域内ヲ浚渫シ其大部分ノ土砂ハ排泥管ヲ延長シテ直ニ埋立區域ニ排出セシメ浦賀丸、榛名號ニ依ルモノハ河口外ノ深所ニ投棄セリ其浚渫土量二萬六千八百九十六坪八合ナリ

埋立工事

本工事ハ櫻島丸及神通丸ノ浚渫土砂ヲ排泥管ニ依リ埋立地域内ニ排出セシメ之ヲ搔キ均シ真土ヲ以テ其上ヲ蓋ヒ砂ノ飛散スルヲ防止スルモノニシテ本年度ニ於テ八千五百十七面坪ヲ竣功ス此外本年度末迄ニ北埠頭ノ全部及右岸埋立地ノ半バ以上ヲ完成セリ

物置場護岸工事 前年度ノ繰越工事ニシテ甲護岸第一ハ工事ノ都合ニ依リ施工セズ、乙護岸第二ハ延長七十六間ニシテ前年度ニ於テ殆ド完成シ本年度ハ其殘工事タル笠石鋪、混凝土繫船柱工事ヲ施行シ茲ニ全部ノ竣工ヲ見ルニ至レリ、甲護岸第二ハ前年度ニ於テ上流栗ノ木川方面ヨリ工事ニ著手シタリシガ其南岸九十八間ハ信濃川右岸流水ノ衝ニ當リ工事進捗ニ伴ヒ流勢増大シ施工困難ヲ極メタルモ本年度末ニ於テ殆ド完成ニ近ク唯笠石鋪、混凝土繫船柱ヲ餘セルノミ西岸百七十間ハ床掘、基礎石約五十間ヲ竣ヘ幾分ノ方塊ヲ積ムコトヲ得タリ

石採取工事 物揚場護岸用トシテ一箇二貫匁以上ノモノヲ阿賀野川沿岸及佐渡郡水津村、河崎村ノ海岸ヨリ採取運搬スル工事ニシテ本年度ニ於テハ僅ニ四十三坪二合三勺ヲ採取セルノミニシテ工費壹千參百拾壹圓拾七錢ヲ支出セリ

繫船岸工事 前年度ヨリ繰越セル北埠頭繫船岸工事ハ本年度初ニ於テ笠石ノ殘部卅一間ヲ施工シ全部百五十間ヲ完成セリ中央埠頭南岸水深十八尺、繫船岸工事ハ六月ヨリ砂利及砂ノ採取混凝土塊製造ヲ始メタルモ起重機船躊躇號ノ修繕ニ多大ノ日子ヲ消費セシ爲メ十二年一月末ニ到リ漸ク床均シ基礎工事等ニ著手スルヲ得タリ時恰モ嚴冬ノ候ナリシト三月ニ入リテハ雪解出水ノ爲メ年度末ニ於テ方塊七十六坪四合ヲ積ムコトヲ得タルノミ

本年度新潟港修築工事ノ竣工額ハ廿五萬九百九拾七圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ百拾貳萬六千六百七拾參圓ナリ之ヲ總工費豫算額貳百拾五萬八千九百五拾五圓ニ對比スレバ五割二分ノ竣工ナリ其工事竣功表ハ左ノ表シ

種別	前年度迄竣功高			本年度竣功高			合計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
繫泊場	一一九開	三三七、三三五	八千	四三、六三八	一五〇	二七〇、九七三	〇・四〇
揚護岸	二〇六立坪	一一四、七九三	三二	二四、五一〇	一三九、三〇三	〇・七五	判分
施設費	一二五、一八四	一三三、六一三	七六	二〇、二九五	一四三、九〇八	〇・三〇	
船舶費	三〇、二六二	二六、八九六・八	立坪	一五二、〇八〇・八	三五、〇六七	〇・一〇	
工船費	二七五六	五六、三九四	四三、五〇八	二八二	二七五、九六〇	〇・一〇	
工中費	二九八、九七二	二一、五五一	一〇二、九八八	九九、九〇二	二七五六	〇・一〇	
工及費	二五〇、九九七	一一二、五五三	一二二、五五三	三二、八〇四	四〇一、九六〇	〇・一〇	
工諸費	八七五、六七六	二五〇、九九七	一、一二六、六七三	〇・五二			步竣合功
總計	一	八七五、六七六	一	〇・五二			

第五 敦賀港修築工事

(大阪土木出張所)

緒言

維新以後政府ハ夙ニ敦賀港ノ開發ニ意ヲ用ヒ明治十四年灣口ニ燈臺ヲ新設シテ航路ノ安全ヲ計リ又同十七年敦賀、長濱間ノ鐵道ヲ開通シテ近畿地方トノ交通ヲ便ナラシメ次デ同廿九年十月當港ヲ特別輸出港ニ指定シ卅二年七月開港令ノ公布セラル、ヤ當港ヲモ亦其一ニ加ヘタリ其後西伯利亞鐵道ノ全通スルニ及ンデ歐人ノ東洋ニ來ラントスルモノ多クハ此ノ便ニ依ルヲ以テ旅客ノ往來日ヲ逐フテ頻繁トナリ貨物ノ集散モ亦從テ増加スルニ至リ本港修築ノ必要ヲ感ズルニ至リタルヲ以テ政府ハ第二十五議會ノ協贊ヲ經テ明治四十二年度以降四箇年ノ繼續事業トシテ工費八十萬圓ヲ以テ第一期修築工事ヲ起シ大正二年度竣工セシモ間モナク歌州戰爭勃發シタル結果本港ハ我國ニ於ケル軍事上將タ經濟上愈主要ノ地位ヲ占ムルニ至リシノミナラズ貨客激増シ第一期修築工事ノミニテハ設備ノ不足ヲ告グルニ至レルヲ以テ更ニ第二期修築工事ノ必要ヲ認メ第四十五議會ノ協贊ヲ經テ茲ニ本年度ヨリ工事ヲ起スコトトナレリ

即チ第二期ニ係ル新計畫ハ總豫算額參百四拾萬圓(内事務費廿一萬圓)大正十一年度ヨリ同十八年度ニ至ル八箇年ノ繼續事業ニシテ既設ノ防波堤ヲ延長シテ港域ヲ擴張シ水深ヲ增加シ必要ナル埋立地並岸壁ヲ築造セントスルモノナリ

港狀並計畫大要

敦賀港ハ越前國敦賀灣ノ南隅ニ在リ東南西ノ三方ハ連山圍繞シ獨リ北方ノ一面ノミ廣ク日本海ニ通ジ

一葦帶水ヲ隔テ、西伯利亞ノ關門タル浦潮斯德港並北韓ノ要津タル元山及清津ト相對峙ス、灣内廣濶ニシテ水極メテ深ク且暗礁、砂洲等ノ障礙物無キガ爲ニ、大船巨舶ト雖モ航走自在、碇繫安全ナルヲ以テ古來濃尾並江州其他近畿地方ト北陸諸國トノ水陸連絡ノ要津タルノミナラズ亦北海道ニ對スル輸出入貨物ノ呑吐口トシテ夙ニ世ニ知ラレタル良港ナリ且地理的關係上對外的ニハ遠ク神功皇后三韓出師ノ當時其策源地タリシコトハ人口ニ膾炎スルトコロ其後或時ハ來朝外國使臣應接ノ地トナリ或時ハ北陸地方政府、軍事ノ中心トナル等港運ノ盛衰ハ數ノ免レザルトコロナリシトハ云ヘ實ニ一千七百餘年ノ歴史ヲ有スル我國日本海岸ノ鎖鑰ナリキ

第一期修築工事

敦賀港ニ對スル文明的港灣設備ハ明治十四年七月灣口立石岬ニ燈臺ノ建設アリタルヲ以テ嚆矢トス是ヨリ先鐵道局ニ於テ起工中ナリシ金ヶ崎ノ防波堤ハ翌十五年六月ヲ以テ竣工ヲ告ゲタリ本工事ハ金ヶ崎停車場ノ北端ヨリ海上西方ニ向テ突出スルコト約百間ニシテ幅十間滿潮面上十二尺ニ達シ全部天然石ヲ用ヒテ築造シ其工費約拾萬圓ヲ要シタリト云フ蓋當時トシテハ重大ナル港灣工事ニシテ其結果港内寄泊ノ大小船舶ヲシテ當地ニ最多キ偏北ノ風波ノ日ト雖モ安全ニ碇繫スルコトヲ得セシメ當港ノ繁榮ヲ増進シタルコト多大ナリキ斯テ明治卅二年當地モ亦開港ノ一一指定セラレ次デ西伯利亞鐵道ノ全通スルヤ日露間交通運輸ノ關係ハ昔日ノ比ニアラズ港灣修築ノ急ヲ認メタルヲ以テ既記ノ如ク總工費八拾萬圓ノ豫算ヲ以テ明治四十二年七月之ガ工事ニ著手シ大正三年三月全部ノ工ヲ終ヘタリ今其工事ノ大要ヲ述ベニ本工事ノ計畫タルヤ當面ノ急ニ應ズルヲ以テ目的トスルガ故ニ當時寄港セル三千噸内外ノ漁船ヲシテ優ニ出入碇泊セシムルヲ標準トシ將來本港ガ發展シテ大規模ノ擴張ヲ要スル場合其

遂行ヲ妨ゲザル範圍ニ於テ金ヶ崎突堤ヲ百一間延長シ之ニ依リテ屏蔽セラル、新舊ノ水面合計六萬五千坪ヲ内港トシ燈臺及浮標ヲ設ケテ境界ヲ示シ港内ハ大要十二尺ノ同深線以外ヲ干潮面以下廿四尺ニ浚渫シ金ヶ崎ノ前面延長百七十餘間ニ瓦ル海面ヲ埋立テ其前側ニ鐵脚片棧橋長六百呎、幅廿三呎ヲ設ケテ三千噸級汽船二艘ノ連繫ニ供ス埋立地ハ總計八千七百十七面坪、高サ干潮面以上八尺トシ其外縁一帶ニ沿ヒ護岸工ヲ施行セリ其水深ハ十五尺以下十一尺、六尺、四尺等位置ニ應ジテ適宜施設シ其延長四百六十六間ナリ右ノ外埋立地内ニハ道路ヲ設ケ橋梁ヲ架シ又突堤頭部並兒屋ノ川口ニ燈臺ヲ設ケ尙挂燈浮標ト繫船浮標トヲ碇置シ之ガ監守員ノ詰所並敦賀稅關支署旅具検査所等ノ雜工事ヲ施行セリ其竣工額ハ七拾參萬九千四百卅五圓ナリ

第二期修築工事

大正十一年度乃至大正十八年度ノ繼續事業タル敦賀港第二期修築計畫ノ大要ヲ掲グレバ次ノ如シ

防沒堤　現在ノ防波堤ヲ同一方向ニ二百十五間延長シ北風ニ對シテ笙ノ川見透線以東ノ水面ヲ掩護セシメントス

埋立及岸壁　現在ノ船車連絡地ノ西北方ニ接續シテ幅平均約三十間、長九十間ヲ埋立テ其前面ニ長九十四間、水深廿八尺ノ岸壁ヲ築造シ六千噸級汽船一艘ノ接岸荷役ニ供ス又笙ノ川右岸ヨリ長百九十間、幅五十間ノ繫船突堤ヲ築造シテ其内側ニ水深廿八尺ノ岸壁九十間ト水深廿四尺ノ岸壁卅間トヲ築キテ六千噸級汽船一艘又ハ三千噸級汽船二艘ノ接岸荷役ニ供ス前記突堤ト兒屋ノ川口トノ間ニ長二百七十間、幅約四十間ヲ埋築シ其前面ニ水深廿四尺ノ岸壁折曲リ長百七十間ヲ築造シテ三千噸級汽船二艘ノ接岸荷役ニ供シ其他總物揚場護岸ヲ築キテ解船又ハ小型船ノ接岸荷役ノ用ニ充ツ而シテ總埋立面積ハ二萬三

千面坪ナリトス

浚渫 前記ノ如ク繫船岸壁築造ニ伴ヒ港内水深モ亦之ニ相應ゼシムル必要アルヲ以テ港内約二萬五千坪ノ水面ヲ水深廿八尺ニ、約一萬五千坪ヲ水深廿四尺ニ、約二千五百坪ヲ水深十八尺ニ浚渫シ斯クシテ水深二十四尺以上ノ水面積約十萬坪ヲ得ントス

之ヲ要スルニ本計畫ハ新ニ延長約四百間ノ岸壁ト約三百九十間ノ護岸トヲ得、港内水面積十萬坪ニ達スルモノニシテ之ガ竣工ノ曉ニハ新設備ニ依リ一箇年間約四十萬噸以上ノ貨物ヲ取扱ヒ得可シ然ルニ本港現在ニ於ケル外國貿易ハ朝鮮貿易ヲ含ミ年約十五萬噸ナルヲ以テ新施設完成ノ上ハ本港貿易額ガ現在ノ約三倍以上ニ達スルモ敢テ支障ヲ來スコト無シ

施工狀況

本年度ハ僅ニ拾萬圓ノ工費ニ過ギザリシヲ以テ六月以降海陸ノ測量及地質調査等ヲ行ヒ九月中旬起工式ヲ舉行シ次デ石材採取箇所ノ調査、假事務所ノ設置等準備作業ヲ爲セシニ過ギザリキ

本年度敦賀港修築工事ノ支出高ハ壹萬八千百五十三圓(事務費ヲ除ク)ニシテ總工費豫算額參百拾九萬圓事務費ヲ除クニ比スレバ僅ニ零割零分六厘ノ竣工高ナリ其工事竣工表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣工高			本年度竣工高			合計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費	六〇一四	一、五六〇	六〇一四	一、五六〇	六〇一四	一、五六〇	六〇一四
營繕費	六九八三	一、五六〇	六九八三	一、五六〇	六九八三	一、五六〇	六九八三
雜費							

總 惠 死 測

傷 量

手

計 與 當 費

一

一 一 一

一

一 一 一

一

一 一 一

一

一 一 一

一

一 一 一

一

一 一 一

一八、一五三

二、六六六

九二三

七

一

一 一 一

一

一 一 一

一

一 一 一

一

一 一 一

一

一 一 一

第六 神戸港修築工事

(神戸土木出張所)

緒 言

神戸港ハ本邦重要對外貿易港ノ一ニシテ其發展駿々トシテ止マザルモノアリ曩ニ政府ハ本港修築ノ計畫ヲ定メ對外貿易ノ一部ハ明治卅九年以來神戸稅關海陸運輸聯絡設備トシテ大藏省ニ於テ起工シ翌四十年之ヲ擴張シテ小野濱前面ニ繫船用突堤四條ヲ築設シ次デ上屋其他ノ陸上設備ニ及ボシ爾來年ヲ經テ其竣功部分ハ大正二年以來既ニ稅關ニ於テ其利用ヲ開始シ舊來ノ面目茲ニ一新セラレタリト雖モ歐洲大戰ニ於ケル本港對外貿易ノ發展ハ更ニ現計畫ノ擴張ヲ促シ且港内ノ靜穩ヲ期ス可キ防波堤ノ築造及對内貿易設備等ニ至リテハ一日モ之ヲ忽緒ニ附ス可カラザルモノアリ茲ニ於テ乎神戸市ハ切ニ之ガ急施ヲ要望シ政府ニ向テ經費ノ一部ヲ負擔セン事ヲ稟請スルニ至レリ則チ政府ハ之ヲ採納シテ總工費貳千七百拾萬圓ヲ豫算シ大正八年度以降同十九年度(元大正十七年度迄十箇年ノ處二箇年度延長)ニ至ル十二箇年ノ繼續事業トシテ小野濱及海岸通地先ニ於ケル外國貿易設備ヲ初メトシ兵庫地先國產波止場附近ニ於ケル内國貿易設備並沖合防波堤築造等將來本港ノ發展ニ資ス可キ施設ノ完備ヲ期スルニ至リ今其工費豫算ヲ區分計上スレバ左記ノ如シ

- 一、外國貿易設備費壹千百萬圓(内神戸市負擔五百五拾萬圓即チ工費豫算ノ二分ノ二)
- 二、内國貿易設備費九百卅萬圓(内神戸市負擔六百廿萬圓即チ工費豫算ノ三分ノ二)
- 三、防波堤築造費六百八拾萬圓(全部國費)
- 四、東及南防波堤(大藏省ニ於テ施行セル)築造費四百六拾七萬圓(全部國費)

上記ノ如ク神戸港修築費(第四號ノ金額ヲ除キ)ハ貳千七百拾萬圓ナリシガ從來ノ神戸港防波堤築造費ハ大正十年度ニ於テ神戸港修築費ニ包括セラレ仍ホ大藏省ヨリ引繼タル豫算貳百七拾五萬圓及大藏省施行額百九拾貳萬圓ヲ加算スルトキハ本工事ノ總豫算ハ實ニ參千百七拾七萬圓ノ巨額ニ達ス而シテ總豫算中ノ事業費ハ貳千九百六拾參萬六千九百五拾貳圓、俸給及事務費ハ貳百拾參萬參千四拾八圓ナリトス

港狀並計畫大要

神戸港ハ北緯卅四度四十一分、東經百卅五度十一分、攝津國ノ西南ニ位シ兵庫、神戸ノ兩灣ヲ以テ形成セラレ其經界ハ北東、脇ノ濱海岸ニ建設シタル立標ト南西、和田岬ニ建設シタル立標トヲ以テ表示シ港内ノ面積ハ約三百萬坪ヲ有シ海岸線ノ延長約四千七百八十間ナリトス而シテ港内ヲ二區ニ分チ、第一區ハ舊湊川尻南端ニ建設シタル頭部三角形ニ基ノ紅色塗ノ立標ヲ見透シタル一直線ノ北方一圓トシ、第二區ハ前記ノ南方一圓トス其第一區ノ極東部ト第二區ノ極南部トヲ軍艦ノ碇泊所ニ其他ヲ商船ノ碇泊所ニ充ツ又雜船及小型船等ハ第一區及第二區ノ沿岸一帶ニ繫留セシム

本工事ノ計畫中外國貿易設備ニ對シテハ濱邊通地先ニ於テ面積七萬九千八百五十坪、海岸通地先ニ於テ面積一萬三千九百四十坪ヲ低水面上十一尺ニ埋立テ濱邊通埋立地ニハ水深卅三尺乃至四十尺ノ繫船岸壁延長一千四百卅間ヲ築造シテ二萬噸級以下ノ船舶繫留ニ適セシメ又濱邊通及海岸通ニ於テ水深九尺及同十二尺物揚場延長一千四百九十二間ヲ築造スルモノトス

内國貿易設備ニ對シテハ海岸通地先ニ於テ面積一萬八千二百五十三坪ヲ兵庫地先ニ於テ面積八萬一千六百坪ヲ低水面上十一尺ニ埋立テ之ニ水深十八尺乃至卅尺ノ繫船岸壁一千七百四十二間ヲ築造シ以テ

八千噸級以下ノ汽船繫留ノ便ニ供スルノ外水深九尺及同十二尺ノ物揚場延長約一千三百五十間ヲ築造スルモノトス

上記新計畫中改良ヲ施シタルモノハ濱邊通ニ於ケル第五突堤ノ幅員ヲ八十間ニ擴大シ兩側上屋ノ中間ニ幅員約廿間ノ倉庫敷地ヲ設ケ貨物荷捌上倉庫ト上屋トノ聯絡ヲ近接迅速ナラシメ當時上屋内ノ貨物掃盡ニ利便ナルヲ考慮シタルト第六突堤ノ幅員ヲ九十間トシ其中央ニ幅員卅間、長二百廿五間ノ水路ヲ設ケ其兩岸ヲ物揚場ニ充テ一面本船荷役ノ傍ラ上屋ノ背後ニ解船荷役ヲ併行シ得可キ嶄新ナル設備ヲ施シ以テ水路運送貨物荷捌上多大ノ便ヲ企圖セリ

沖合ニ於ケル防波堤ハ東及南ノ兩堤ヨリ成リ此總延長約三千五百間以上ニ達セントス而シテ其南堤ハ延長八百間(當初計畫五百間ノ處新設半島堤ノ增加及實測ノ結果延長)東堤ハ其一及其二並既成部分ヲ合シテ延長約二千二百間ナリトス今其法線ヲ記スレバ大要左ノ如シ

一、南堤ハ港界ヲ表示スル和田岬ノ立標ヨリ東微北ニ走ル一線上ニ於テ陸岸ヨリ百五十間隔タリタル位置ヲ以テ起點トシ東方ニ延長約六百七十間餘ヲ築造シ其終端水深七尋以上ノ箇所ニ於テ東堤ノ頭部トノ間ニ百五十間ノ港内ヲ設置ス又陸地ト起點トノ間ニ五十間ノ副門ヲ存シ仍ホ西方ニ直線延長百廿六間餘(當初計畫ニ百五十間ノ副門存置ノ場所)ノ堤ヲ築キ陸岸ニ達セシム

一、東堤ハ一直線ニ北微西ニ約八百卅間餘ヲ走リ既成防波堤トノ間幅員五十間ノ東副門ヲ存置ス之ヲ東堤ノ二トス而シテ東堤ノ一ハ既成防波堤ノ東端ヨリ東方ニ曲線ヲ描テ走ルコト二百八十九間五九、之ヨリ一直線ヲ以テ磁針方位南八十度東ニ約四百四十二間延長スルモノニシテ此東南兩堤ヲ以テ抱擁セラル、水面積ハ約三百萬坪ヲ算ス就中解艇及小蒸氣船ノ繫碇場ニ適スル船溜水面積ハ濱邊通地先

ニ於テ約一萬四千三百坪、米利堅波止場附近ニ於テ約五萬八千六百坪、國產波止場附近ニ於テ約一萬五千六百坪、兵庫新川沖ニ於テ約五萬七千四百坪、合計約十四萬六千坪ニ達ス。前記計畫ノ外豫算ノ審議未了ニシテ既ニ施行計畫ノ決定セルモノ左記ノ如シ。

一、假防波堤 既定計畫東防波堤其一ノ東端トノ間ニ百五十間ノ入口ヲ存シ其方向ハ磁北陸岸ニ向ツテ延長六百間ヲ築造セントス。

二、米利堅波止場増築 現在ノ波止場ヲ沖合ニ向テ更ニ六十二間延長シ汽艇發着ノ便ヲ增進スルト共ニ其頭端ノ西側ニ第一類船溜場ヲ設ケ此方面ニ於ケル海上ノ混雜ヲ緩和セントス。

三、國產波止場改築 現計畫ニ屬スル海岸通突堤根元ヨリ高濱埋立地ニ到ル地帶ハ神戸港ノ中央部ニ位シ船ノ尤モ輻輳スル處ナルモ背面ノ地域狹隘ニシテ荷役ノ不便渺カラザルヲ以テ現在ノ波止場護岸ヲ取除キテ之ヲ埋築シ中央ニハ突堤一條ヲ設ケ沿岸一帶ニ水深九尺ノ物揚場延長三百八十間ヲ築造シ以テ荷役ノ便ニ供スルモノトス。

四、鐵道棧橋改築 現在ノ鐵道棧橋ハ幅四十尺、長四百五十尺ノ鐵柱構造ナルモ既ニ腐朽シ到底荷役ノ用ニ供スルコト能ハザルヲ以テ之ヲ鐵筋混凝土圓柱構造ニ改築スルト共ニ其幅員ヲ擴張シ諸船舶及港内ニ於ケル給水船等ノ繫留ニ充テ兼テ石炭置場ニ供セントス。

今本計畫ヲ更ニ表記スレバ左ノ如シ

種別	位置	面積又ハ延長	摘要	要
海岸通地先	下ノ潮面以 水深			

岸壁										埋立				外國貿易設備			
小計					外國貿易設備					小計		內國貿易設備	兵庫地				
同	濱	海	同	同	兵	同	濱	邊	通	地	先	計	海岸	通	地	先	
邊	岸	岸	通	通	庫	通	邊	邊	通	地	先	計	通	地	先	計	
通	通	地	地	地	地	先	先	先	先	先	先	計	先	先	先	計	
九	二	九	二	一	一	八	二	八	一	八	二	四	二	八	三	三	四〇
九	一	七	三	二	三	一	七	四	二	五	一	三	〇	七	一	三	〇
一	一	〇	七	三	二	一	一	四	三	〇	七	一	三	〇	七	一	三
一	一	〇	七	三	二	一	一	四	三	〇	七	一	三	〇	七	一	三
七	三	九	四	一	六	五	二	二	七	一	七	一	七	一	七	一	七
米利堅	堅	波	正	場	增	築	延	長	一一	九	五	間	ヲ	含	ム	七	九

施工狀況

神戸修築工事ニ於ケル過去三箇年ノ實驗ニ徵スルニ毎年度約六、七拾萬圓ノ遞次繰越額ヲ生ズルヲ常トセリ右ハ主トシテ戰後一般經濟界ノ不安狀態繼續シ爲ニ材料勞力ノ需給上豫期ノ調節ヲ得ラレザリシニ基因シタルモノトス然ルニ本年度ハ稍ヤ財界ノ狀況沈靜シ是等需給關係ニ於テ漸ク緩和ノ曙光ヲ示シタルヲ以テ則チ機ヲ逸セズ前半期間ニ計畫ノ大部分ヲ確立シ専ラ之ガ進捗ニ努メタリ故ニ本年度前半期ニ於ケル功程ハ既ニ現年度中金額ニ於テ其過半以上ニ達シタリ此狀態ヲ以テ進行スルトキハ本年度ハ多大ノ功績ヲ擧グ得ベカリシ時適大正十二年度ノ豫算編成期ニ際シ政府ニ於テハ極力緊縮方針ノ下ニ諸般ノ經費ヲ節約セラレタル結果大正十一年十一月ニ至リテ果然本年度現豫算中(七拾萬圓減額ノ處更ニ卅萬圓増額)四拾萬圓支拂停止ノ訓令ニ接シタリ事情上記ノ如クナリシ爲メ本年度モ亦所期ノ功績ヲ擧グルコトヲ得ザルヲ遺憾トス

本年度ノ施工狀況ヲ便宜大別シテ外國貿易設備、内國貿易設備、防波堤築造及材料採取並材料製造等ノ各項ニ分類シ仍ホ必要ニ應ジテハ更ニ之ヲ細分シ以下順次其概要ヲ記述セントス

一、外國貿易設備

(イ)岸壁及物揚場築造 岸壁工事ハ本年度ノ著手ニ屬シ既定計畫ニ基ク海岸通地先水深卅三尺ノ部分ニ於テ第一突堤東側岸壁基礎延長百間五分及第五突堤岸壁基礎延長二百廿一間ニ於テ鐵筋混擬土函ノ基礎ト爲ル可キ砂床ヲ構成スル爲メ地盤上層ニ於ケル泥土ヲ除却シ硬質床面ニ達スル迄之ヲ掘鑿シタルモノニシテ「プリストマン」式浚渫船第二號及第三號ヲ運用シテ之ニ土運船ヲ配シ小蒸氣船須佐野丸ヲ介シテ掘鑿土砂ハ之ヲ埋築ニ利用ス而シテ本年度ノ功程ハ土量一萬二千五百六十八坪ニシテ内一萬一千百廿三坪ハ濱邊通地先ノ下埋ニ一千四百四十五坪ハ之ヲ兵庫地先ニ於ケル下埋ニ利用シタルモノトス

物揚場築造工事ハ前年度來ノ續行工事其大部分ヲ占メ本年度新ニ著手シタルモノハ海岸通突堤東側水深十二尺物揚場及米利堅波止場増築工事ナリトス而シテ本年度施工シタルハ五工事ニシテ其ノ工程ハ通ジテ基礎捨石延長百十三間、荷重据置八十三間、方塊沈積七十五間、石垣九十九間、階段一箇所半、防舷材五箇所半ニ及ビ外ニ下水管十九箇ノ製造ヲ完成シテ直接工費拾貳萬百六拾九圓(直營採取品及同製造品代ヲ含ム)餘ヲ支出シタリ

(ロ)埋立工事 本年度施行シタル埋立工事ハ濱邊通地先ノ上埋工事ヲ施シタルト兵庫縣下武庫川尻ヨリ上埋用土砂ヲ採取シ一旦ハ港内適宜ノ場所ニ假置シ仍ホ此假置土砂ヲ吸揚船ニ據リ吸埋シ濱邊通ノ上埋箇所ニ排砂埋築シタルモノトス

本年度埋築工事ノ功程ハ洞海丸一萬一千百七十立坪、和泉丸七千百八十七立坪、敏馬號一萬五千百七十八立坪ノ外ニ間接工事ヨリ生ジタル利用土砂ニシテ下埋ニ供シタルモノ一萬二千八百九十三立坪及假置一千七百十三立坪ヲ合シテ此總土量四萬八千百四十一立坪ヲ處理シ直接工費九萬貳千五百九拾圓餘(曳船費ヲ含ム)ヲ支出シタリ此平均一立坪當リハ壹圓九拾貳錢參厘ナリ

本工事ニ屬スル埋立地ノ地均シハ濱邊九百面坪、海岸通二千面坪ニシテ此直接工費壹千參百六拾八圓七拾壹錢ヲ要シタルヲ以テ平均一面坪當リハ四拾七錢貳厘ナリ又締切堤延長六十五間ヲ築造シテ工費參萬五千七百五十四圓餘(別設計採取品代ヲ含ム)ヲ支出シタルヲ以テ平均間口當リ五百五拾圓六錢ニ相當ス而シテ本年度上記諸工事ノ施工ニ直接支出シタル總工費ハ拾參萬參千四百六拾圓餘ヲ算ス(直營採取品及同製造品代ヲ含ム)

二、内國貿易設備

(イ) 岸壁及物揚場築造 既定計畫ニ基キ本年度ヨリ岸壁工事ヲ開始シ大正十一年五月一日ヨリ兵庫地先ニ於テ水深廿四尺、甲岸壁延長百十三間及同第二突堤南側延長五十五間ノ基礎掘鑿ニ著手シ「プリストマ」式浚渫船ヲ使用シテ現在ノ海底下硬質砂層ニ達スル迄掘鑿シ土砂一萬四千五十一立坪ヲ得テ之ヲ兵庫下埋ニ充當シ此直接工費貳萬七百四拾四圓餘ヲ支出シタルヲ以テ平均一立坪當リ壹圓四拾七錢六厘ニ相當シ又間數ニ於テハ延長百六十七間六七ヲ施工シタルヲ以テ間口當リハ約百廿參圓七拾貳錢ナリ次デ兵庫地先水深廿四尺、甲岸壁及同所第二突堤水深廿四尺ノ二箇所ニ岸壁函据付工事ニ著手ス前者ハ基礎床拵十間、後者ハ同根元接續部五間ヲ施行シ此工費通計參百九拾貳圓五拾貳錢ヲ支出シタルヲ以テ間口廿六圓拾六錢八厘ヲ要シタリ

物揚場築造工事ハ施工箇所六工事ナリシモ概ネ前年度ノ繼續工事ナルヲ以テ專ラ功程ノ進捗ニ努メタリ今本年度ノ成績ヲ工種別ニ列記スレバ基礎捨石延長五十五間五分、荷重据置延長百卅八間二分、方塊沈積延長二百卅間、石垣延長九十四間五分ヲ施工シテ此直接工費廿壹萬九百五圓餘ヲ支出シタリ(直營採取品及同製造品代ヲ含ム)

(ロ) 埋立工事 本年度ハ兵庫地先ニ於ケル下埋並上埋トヲ施工シ其下埋ニハ「プリストマン」式自走浚渫船ニ據リ土量一千七百四十五立坪並鋤簾式浚渫船ニテ浚渫シ之ヲ曳船ニテ運搬投下シタル土量二萬九千九百六十一立坪外ニ間接工事ヨリ生ジタル利用土砂ノ埋築土量一萬七千四百廿五立坪ヲ合シ此埋築總土量ハ四萬五千百卅一立坪ニ及ベリ又上埋ニハ唧筒式浚渫船二艘ニテ二萬二千百九十九立坪ヲ處理シタルガ故ニ本年度ニ於ケル功程土量ノ通計ハ六萬七千三百卅立坪ニ達シ此直接工費拾萬七千八百七拾圓餘ヲ支出シタルヲ以テ一立坪當リハ平均壹圓六拾錢貳厘ナリ尙上埋土砂ノ表面ヲ均シタル面坪二千

四百卅坪之ニ要セル工費六百廿九圓七拾六錢此坪當リ廿五錢九厘ニ相當シ外ニ締切堤延長六十七間ヲ築造シテ工費參萬九百拾九圓餘ヲ支出シ此間口當リハ四百六拾壹圓四拾七錢ナリトス而シテ本年度上記埋立工事ニ直接支出シタル工費ハ合計拾參萬九千四百拾九圓餘ニ達セリ（直營採取品代ヲ含ム）

三、防波堤築造

本工事ハ之ヲ區分シテ船溜防波堤、南防波堤及東防波堤ノ二ノ三種ニ類別シ以下其施工狀況ヲ記述セン
トス

（イ）船溜防波堤 本工事ハ前年度ニ引續キ施行シタルモノニシテ其功程ハ基礎捨石延長十四間、荷重据置百十三間、方塊沈積百六間、石垣廿五間、中詰六百八立坪、階段三箇所ヲ施工シテ直接工費八萬九拾七圓餘ヲ支出シ其功程歩合ハ約六割三分ニ達ス

（ロ）南防波堤 本工事ハ大正六年九月ヨリ同七年度迄ハ大藏省ノ所管ニ屬シ大正八年四月ヨリ内務省ニ移管シタルモノニシテ爾來施工ヲ繼續シ大正十年度迄ニハ當初計畫ノ延長五百間ニ對シ約七割ノ竣功ニ近ヅキタルモノトス而シテ本年度ノ功程ハ基礎捨石延長百十八間、荷重据置延長百卅六間一七、上部床均延長百廿一間一七又鐵筋混凝土函ノ据付ニ於テハ函沈置延長百七間三二、函内填充延長百五間八一、根固方塊据付延長百間七六ヲ完成シテ此直接工費六十五萬一千二百參圓餘ヲ算ス（直營採取品及同製造品代ヲ含ム）而シテ當初計畫ニ對シテ竣功歩通ハ數量ニ於テ約九割餘ニ及ブ

（ハ）東防波堤ノ二 本工事ハ既定計畫ニ基キ大正九年度末ヨリ僅ニ其法線ノ測定ニ著手シ大正十年度ヨリ基礎工事ヲ開始シ本年度ハ之ニ繼續シテ基礎捨石延長廿五間、荷重据置四十九間三三ヲ施工シ直接工費九萬壹千九百六拾圓餘ヲ支出シタリ（直營採取品及製造品代ヲ含ム）此竣功歩通ハ數量ニ於テ約三分三

本年度前記工事施工ノ爲メ曳船ヲ使用セル運轉費ハ參萬七千八百七拾八圓餘及其他ノ附帶費ヲ通シテ
防波堤築造ニ直接支出シタル金額ハ六拾五萬壹千貳百參圓餘ナリトス(直營採取品及同製造品代ヲ含ム)

四、材料採取

神戸港修築工事用諸材料ノ需給關係ヲ圓滑ナラシムル爲メ主トシテ割石ノ一部及切込砂利、礫等ノ直營
採取事業ヲ大正八年度ヨリ開始ス而シテ割石ハ兵庫縣下淡路國岩屋町宇鶴崎海岸ヨリ又切込砂利等ハ
同縣下加古川筋ヨリ採取スルニ何レモ漸次良好ナル成績ヲ得テ近時市場ヨリ供給ヲ受クルニ比シ遙ニ
低廉ナルヲ得ルニ至レリ本年度割石及砂礫採取ノ成績ヲ掲ゲンニ割石採取量四千五百六十四立坪三四
ニシテ工費四萬六千六百六拾四圓餘一立坪當約拾圓廿參錢又割石運搬量四千八百廿七立坪二三六、此工
費貳萬貳千九百五拾四圓餘(一立坪當リ約四圓七拾五錢五厘)ヲ示シ又砂礫
ハ割石採取ニ伴フ副產物ナルモ近時其需用著シク増加シ防波堤其他岩壁物揚場基礎ノ埋戻ニ使用サル
、ヲ以テ主要材料中ニ數フルコトヲ得可ク其量モ亦渺シトセズ本年度砂礫ノ採取量ハ一萬一千八百廿
六立坪八六ヲ算シ工費及運搬費ヲ合シ六萬四千六百卅貳圓弱ナルヲ以テ一立坪當リハ平均五圓四拾六
錢ナリトス

割石採取ニ就テハ地勢及海岸ノ狀況ニ依リ相當ナル設備費及是等ノ施設物件ニ對スル補修費ハ大正十
年度迄ニ七萬六千百六拾參圓餘ヲ費シ仍ホ本年度ニ於テ棧橋延長十間、線路零哩〇三一及石柱五間五分、
柱内ノ填充ニ石材卅立坪ヲ使用シ鐵筋混泥土函ノ製造三箇、進水設備一箇所ヲ施工シタル外別ニ石柱十
九間ヲ築造シ既設石柱ノ補修百十間ヲ施工シタルガ故ニ工費參萬六千參百五拾貳圓餘ヲ支出シタリ

加古川筋ヨリ採取スル切込砂利ハ重ニ鐵筋混泥土函ノ製造及各種ノ方塊並函内填充用混泥土製造ニ要スルモノニシテ其使用量多額ヲ算スルノミナラズ割石類ニ比シ殊ニ供給困難ナルガ故ニ其所要量ノ全部ヲ直營採取ニ委セリ採取當初ハ時價ニ比シ頗ル高價ナリシモ年ヲ經ルニ從ヒ漸次低減シテ今ヤ到底市價ノ追隨ヲ許サムルノ好成績ヲ舉グルニ至レリ本年後ハ其採取ニ於テ切込砂利四千六百四十一立坪三一九、礫一千二百十八立坪七二、計五千八百六十立坪〇三九ニ及ビ輸送數量ニ於テハ切込砂利四千六百四十一立坪三一九立坪三一九、礫一千二百廿二立坪八八ニ達ス内陸揚及投入類切込砂利四千六百七十六立坪七九一、礫一千二百卅立坪九八、右工費通計拾萬壹千卅九圓餘ヲ支出シタルヲ以テ一立坪當リハ平均約拾七圓拾九錢ナリトス因ニ曰ク切込砂利及礫ノ採取ハ採取設備費ヲ要セズ

五、材料製造

本工事ハ鐵筋混泥土函及各種ノ方塊並函内填充用混泥土ヲ製造スルモノニシテ此種材料ノ製造ハ特種ノ設備ヲ要スルヲ以テ狀況記述ノ便宜上該設備ノ大要ヲ掲グントス

(イ)鐵筋混泥土函製造棧橋建築 鐵筋混泥土函ノ製造ニ關シテハ工場ノ敷地及水面積ノ狹隘ナルニ而カモ短日月ニ於テ大部分ノ製造ヲ完了ス可キ必要アルト又函ノ形狀ハ極度ニ斷面ヲ節約シ左石不對稱形ヲ採用セルヲ以テ特ニ進水ノ安全ヲ圖ラザル可カラザルト浮船渠運用ノ便ヲ期スルコト並其建設工費ノ節約ヲ考慮セザル可カラザル等種々ナル事由存スルヲ以テ場所ノ選定ヲ唯一ノ條件トセリ依テ濱邊通埋立地前ノ海面中ヲ相シテ棧橋ヲ建築シ其上部ニ於テ函ヲ製造シ浮揚力二千五百噸ヲ有スルL字型浮船渠ニテ之ヲ引卸シ以テ進水ヲ容易ナラシム其他之ニ伴フ設備ノ主ナルモノハ陸上ニ約九千坪ヲ畫シ塔型電氣起重機、混和機、捲揚機、詰型杵曳船、雜船及「セメント」其他ノ材料ヲ格納ス可キ倉庫、作事場等其規

模頗ル大ナルモノトス左ニ本修築工事所要鐵筋混凝土函ノ種別及數量ヲ記述シテ参考ニ資セントス

一、大型函 百七十三箇(假防波堤用卅二箇ヲ含ム)

右ハ水深四十尺、卅三尺、卅尺、廿八尺及廿四尺岸壁用並假防波堤ニ使用スルモノニシテ其形狀ハ長百六十呎、幅卅八呎乃至廿六呎、高四十四呎六吋乃至卅呎トス而シテ此混凝土ノ容積ハ三萬九百立方尺乃至一萬六千四百立方尺ヲ算シ重量ハ二千卅四噸乃至一千八十一噸ナリトス

二、小型函 三百七十一箇(用内防波堤用五十二箇及物揚場)

防波堤用函ハ長四十尺幅、廿三尺、底幅廿三尺、高廿二尺、此混凝土容積四千二百立方尺、重量二百九十四噸ナリトス

物揚場用函ハ長四十尺、頂幅十二尺、底幅十八尺、高廿二尺、此混凝土容積三千二百六十八立方尺ニシテ重量ハ約二百廿噸ナリトス

鐵筋混凝土函ノ所要數上記ノ如クナルヲ以テ今後新設備ニ於テ製造ス可キ混凝土ハ合計約五百四十二萬立方尺ニシテ之ヲ本年度下半期以降大正十七年度上半期ニ至ル約六箇年間ニ製造ヲ要スルガ故ニ盛時ニハ一箇年混凝土ノ製造容積約九十萬立方尺ヲ算ス而シテ之ヲ使用方面ヨリ見ルトキハ一箇年岸壁ノ延長約五百八十間、防波堤ノ延長約二百六十七間ニ相當ス左ニ棧橋ノ構造一般ヲ記述ス可シ

鐵筋混凝土函製造棧橋ハ橋臺六基、橋脚卅五基ヲ有スル五徑間ヲ基礎トシ其上部ニ函臺及之ニ伴フ諸設備ヲ完備セシム而シテ其位置東西ニ長七百十尺六寸、幅員護岸法線ヨリ北方ヘ百十七尺三寸、此面積二千三百十五坪ノ海上ニ各橋脚及橋臺ヲ櫛齒形ニ築造シ之ヲ五徑間ニ分チ各徑間毎ニ上部ニ函臺一箇宛ヲ設置ス岸壁用函製造ノ場合ニハ一箇宛又防波堤用函製造ノ場合ニハ一函臺ニ付同時ニ四箇若クハ

五箇宛ヲ製造シ得可カラシメ而シテ浮游ニハL形浮船渠ヲ運用スルモノトス
本工事ハ大正十年三月ヨリ著手シ大正十一年度中ニハ其大部分竣工シ本年七月ヨリ一面函ノ製造ヲ開始
シタリ之ガ全部ノ竣工ハ大正十二年度ニ繰越サル可キモ本年度迄ニ工費六拾五萬八千百貳圓餘ヲ支
出シ仍ホ完成スルニハ約參萬圓以上ヲ要スルノ見込ナリトス

(ロ)方塊製造設備 神戸港修築工事ニ要スル方塊ハ各種通ジテ其數約二萬箇、此混泥土量約四百才、外ニ岸
壁函並防波堤用函ニ於ケル填充用ノ混泥土量約五百十五萬才ヲ合算スルトキハ合計無慮約九百廿萬才
ニ達ス而シテ當初以來大正十一年度迄ニハ通計約百七十萬才ノ完成ヲ告ゲタルヲ以テ爾今大正十二年
度以降ニ於テ製造スペキ混混凝土量ハ仍ホ七百五十萬才ナリトス故ニ少クトモ之ヲ工事ノ最終期ニ箇年
前則チ大正十七年度迄ニ完了セシムルモノトスルトキハ一箇年平均百廿五萬才ノ製造力ヲ要シ或ハ工
事進捗ノ程度如何ニ依リテハ盛時最大百五十萬才以上ノ能率ヲ必要トス可ク從テ該設備ニ充ツ可キ面
積ハ最少限度ニ於テ廣袤約六千五百坪ヲ要ス而シテ内約一千七百坪ハ方塊製造及乾燥場ニ一千坪ハ「セ
メント」火山灰ノ格納倉庫及雜建物ノ敷地ニ殘餘約三千八百坪ハ砂利型枠石材及木材等ノ置場並作業用
ニ供スルモノトス左ニ設備ノ概要ヲ記述ス可シ

方塊製造場及同乾燥場内ニハ「ゴライアス」起重機、方塊運搬車及溝渠内運搬車等ノ運轉ニ供スル爲メ六十
封度單線軌條延長約一哩四分ヲ敷設シ主要材料「セメント」約一千七百五十噸、火山灰約八百噸及切込砂利
約一千百立坪ヲ貯藏スルニ適セシメ仍且「セメント」約百五十噸ノ風化ヲ可能ナラシム而シテ之ニ要スル
主要機械ハ廿噸「ゴライアス」電氣起重機一臺、同附屬「ドーバーサー」一臺、廿一才練リ混泥土混和機(十五馬力
電動機附屬)四臺ニシテ右ノ内混泥土混和機四臺ハ既ニ大正十一年十二月購買契約結了シ大正十二年度

初期ニ納入ノ豫定ニシテ「ランサム」式廿一號S型トシ之ニ電動機全密閉式十五馬力各一臺ヲ附屬セシメ「ドラム」ニ未混合材料約廿才ヲ容レ一分時十六乃至十八廻轉ヲ爲シ以テ混凝土約廿一才ヲ練リ上グルモノトス前記混和機ノ内二臺ヲ方塊製造ニ他ノ二臺ヲ函内填充用混凝土製造ニ使用シ仍ホ現在使用ノ「オースチン」式廿二番型二臺ハ之ヲ豫備ニ供ヘシム

上記計畫ニ基キ兵庫地先ニ於ケル埋立完成地ヲ相シ地區ノ中央部面積約九百十坪ヲ方塊製造及同乾燥場ニ七十五坪ヲ運搬汽車ノ待避場ニ一百坪ヲ遷車臺運轉用溝渠ニ充ツル爲メ所要ノ掘鑿及地均ヲ施工シ周圍ニハ土留石垣ヲ築造ス又構内ノ基礎ヲ固定スルニ砂利ヲ敷キ詰メ六十封度軌條ヲ東西ノ方向ニ各軌間約十呎ヲ距テ、十九線ヲ設ケ此延長約四千七百五十呎ニ及ブ而シテ軌道ノ終端ニ沿ヒ混凝土運搬用土堤幅員二間、延長卅間一條ヲ築造セントス

本設備工事ハ大正十一年十月ノ著手ニ係リ年度内土留石垣延長七十七間構内敷地ノ撞キ固メ七百九十四面積、土堤延長卅間及鐵混凝土枕木(長十一呎十吋、幅九吋、高五吋)一千五百本ノ製造ヲ完成シテ工費貳萬八百九拾參圓餘ヲ支出シ本工事ノ大半竣功ヲ告ゲタリ

從來鐵筋混凝土函ノ製造及各種ノ方塊並函内填充用混凝土製造ニ關シテハ當初ヨリ其所屬別ニ(例之内國貿易設備、外國貿易設備、防波堤築造ニ各所屬ヲ區分)計畫ヲ樹テ製造處理ヲ爲シタルモ大正十一年度ヨリ此方法ヲ改善シテ材料製造費ノ整科目ヲ設置シ總テ共通的ニ製造シ其實際使用ノ結果ニ基キ之ガ所屬ヲ區分スルノ方法ニ改メタリ左ニ材料製造ノ施工狀況ニ就キ記述スル所アラントス

(イ)鐵筋混凝土函製造 從來ノ設備ヲ襲用シテ大正十一年度迄ニ南防波堤用函五十二箇、內國貿易設備物揚場用函四箇、計五十六箇ヲ製造シテ一時本製造工事ハ中絶シタリ右ハ大藏省管轄埋立工事施行ノ關係上

舊設備ノ取除ケヲ要シタルト一面新設備ノ築造工事ハ恰モ工事施行中ニ屬シタルヲ以テナリ而シテ新設備ハ前述セル如ク其規模大ニシテ之ガ全部ノ完成ニハ相當期間ヲ要ス可キモ大正十一年七月頃ヨリ部分的完成ノ設備ヲ利用シテ本年度ハ防波堤用函(長四十尺、幅廿三尺、高廿二尺)十四箇ト岸壁用二號函(長百十六呎、幅卅三呎、高卅九呎)十箇ノ内其幾分又同上五號函(長百十六呎、幅廿六呎、高卅呎)七箇ノ内約二箇、計十六箇ヲ製造シテ工費拾萬貳千五百九拾八圓餘ヲ支出シタリ(直營採取品代ヲ含ム)依テ一箇當リノ平均單價(形狀寸法ヲ異ニスルモ)六千參百九拾參圓ニ當レリ』

(ロ)方塊製造 所要方塊ハ其形狀寸法及構造ノ種別ヨリ數十種ニ岐タレ且其製造設備ニ關シテハ函製造設備ト其揆ヲ一ニシ則チ舊設備ノ返還、新設備ノ著手等ノ曲折ニ相當時日ヲ費シタルモ大正十一年迄ニハ南防波堤用方塊三千九百五十箇(内大藏省ノ製造ニシテ引繼タルモノ一千三百七十一箇ヲ含ム)船溜防波堤用方塊百十三箇、外國貿易設備物揚場用各種一千二百六十四箇及内國貿易設備物揚場用方塊各種四百卅七箇、東防波堤用大方塊九十八箇、合計五千八百六十二箇ヲ製造シ工費五拾九萬參百九拾七圓餘(直營採取品代ヲ含ム)ヲ支出シタルヲ以テ平均一箇ノ單價ハ約百圓七拾壹錢ニ相當セリ而シテ本年度ハ舊設備ノ返還ニ伴ヒ工場ノ移轉、尙加フルニ新設備ノ著手等事情頗ル繁激ノ間ニ處シテ二千百八十一箇ノ製造ヲ完了シテ工費拾九萬貳千五百卅六圓(直營採取品代ヲ含ム)餘ヲ支出シタルヲ以テ平均一箇ノ單價八拾八圓廿七錢ナリトス

(ハ)函内填充用混凝土製造 混凝土ノ製造ハ方塊ノ製造ト併ビ行ハレ大正八年度ヨリ大正十一年度ニ至ル四箇年間ハ専ラ南防波堤用鐵筋混凝土函内ニ於ケル填充用ノ場所詰ニ使用スルモノニシテ前年度迄ハ其製造量卅萬九千三百六十六才、此工費拾壹萬壹千七百八拾壹圓餘(直營採取品代ヲ含ム)ナルヲ以テ此

百才當リ卅六圓拾錢而シテ本年度ノ製造量ハ十一萬六千七百廿八才ニシテ工費參萬五千貳百五拾六圓餘(直營採取品代ヲ含ム)ヲ支出シタルヲ以テ此百才當リハ卅圓拾八錢ナリトス

本年度主要工事ノ施工狀況ハ大要上記ノ如クナルヲ以テ以下機械工場ノ事業成績、營繕工事及雜工事ノ主ナルモノニ付記述ス

一、機械工場事業 修築事業ノ進展ニ伴フテ逐年機械工場ノ事業ニ益繁ヲ加フルニ至レリ今試ニ其修理製作費ヲ統計スレバ大正八年度ニ於テハ參萬貳千五百八拾五圓ナリシガ同九年度ニハ五萬貳千九百八拾五圓ニ達シ同十年度ニハ一躍九萬六千八百六拾五圓ニ遞次累進シタリ而シテ大正十一年度ニハ從來ノ記錄ヲ突破シテ實ニ拾六萬九千廿七圓ニ増加セル趨勢ハ以テ工事ノ進境ヲ窺フニ足ル可シ

二、營繕工事 直營施工ニ係ル本工事ノ主ナルモノハ鐵筋混凝土函ノ製造、棧橋築造工事及方塊製造設備工事ノ三トス右ハ既ニ上述セル所ニシテ他ハ既設建設物ノ移轉改築及模様換等ヲ施工シタルニ過ギズ又請負工事ニ在リテハ造函工場所屬ノモノニ倉庫作事場工場等ヲ合セテ其數六棟及方塊工場所屬倉庫二棟、工場一棟、其他雜建物ヲ合セ九棟ヲ建設シ此請負金額六萬七千圓ヲ支出シタルヲ主ナルモノトス

三、雜工事 本年度施工ニ係ル雜工事中主ナルモノハ兵庫地先ニ假護岸延長十二間、同濱邊通地先ニ延長十八間ヲ築造シ及同所函製造場前面ニ石垣延長卅九間並同地先ニ於ケル函製造場ヘノ材料運搬路ニ充ツル傍ラ水道鐵管敷設、動力輸送ニ供スル電柱建設ニ便センガ爲メ鐵道省借入地ヨリ埋立未完成ノ位置ニ通ズル假棧橋延長二百十間ヲ築造ス又函製造棧橋附近ニ於テ浮船渠運轉ニ適スル水深ヲ得ンガ爲メ浚渫工事ヲ施行シ土量七千六十八立坪一合ヲ得テ内一千百七十四立坪ハ兵庫地先ノ下埋工事ニ利用シタレドモ其他ハ潮位ノ關係上港外約三浬ノ沖合ニ運搬投棄スルニ至レリ

埋築土砂ヲ得ル目的ヲ以テ兵庫縣武庫川尻及和歌山縣紀ノ川尻ノ深淺測量ヲ施工ス其他セメント約六千噸、火山灰一千噸及油類三萬九千升ニ對シ品質及性狀ノ試験ヲ行ヒタリ

神戸港修築工事ノ本年度竣功高ハ參百四拾五萬八百九圓ニシテ起工以來ノ總竣工累計ハ壹千貳百七拾八萬參千九百九拾四圓(現在物品代五拾萬參千七拾五圓ヲ含マズ)トナリ總工費豫算貳千九百六拾參萬六千九百五拾貳圓ニ對シ約四割三分ノ竣工ナリ工事竣工表ハ左ノ如シ但シ上記竣工金額ノ内ニハ總テ直營採取品及同製造品ノ代價ヲ含ム

國		外		種	
築物 揚造場		基礎 掘鑿基			
雜	防	階	裏	上	計
船	部	方	荷	基	第一
	石	塊	沈	沈	五突
費	材	據	捨	捨	突
材	段	積	置	石	堤
資	垣	積	置	石	堤
工	段	積	置	石	堤
度	高	量	額	金	前年
度	高	量	額	金	迄竣
度	高	量	額	金	本年
度	高	量	額	金	竣功
度	高	量	額	金	合
度	高	量	額	金	步竣
度	高	量	額	金	合功
度	高	量	額	金	部分

設		易										貿									
		波船溜堤防					基					增波米止利築場堅									
		計	上	中	階	防	曳	方	荷	基	下	同	荷	基	計	曳	附	帶	工	船	
同濱海土邊岸砂假置通		船舷	部	塊	重	基礎	據	石沈	捨	基	荷	基	荷	基	計	曳	附	帶	工	船	
計		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	
二一〇一八		六、九五七 立坪								六	四九間										
三九、九六二		△X 三〇、三九六	X 五二、五四八	X 二、五七八	X 一、二三四					X 五、八二八	X 四二、五四八						△X 二九、三九七二	二九、三九七	四、八九〇	六、三四五	
一、七一三		四六、四二八					六〇八 箇所	立坪	二五	一〇六	一一三	一四間				一九、箇所一	一六間				
三一、七四七		△X 八三、八五四	X 二七、三五八	X 一九八五	X 一〇六八	X 一、二九四	二九、三五七	三、八二〇	二二四	一三、二四	一四、九五八	一九、〇九七	X 七、六四一	X 一二八	X 五二一	六九、一七四五	一〇、四九六	一七、一三七	一六八八		
二二、七三一		一八〇、六〇一	六、九五七 立坪				六〇八 箇所	立坪	二五	一〇六	一一九	六三間				一九、箇所一	二六間				
三四、七〇九		△X 三〇、三九六	一三二、六六八	X 二七、三五〇	X 六、八九〇	X 三、二一九	一〇六八	三、八〇七	二二九、三五七	一六、〇五二	一九、〇九七	五七、八〇六	X 七、六五八	X 一二八	X 五二一	三六、九一五	一〇、四九六	一九、六五三	四、八九〇	八、〇三三	

堤 波 防				易 設 備							
波南		堤防		合	假	埋築					
內	沈	內	沈			東防	南堤	計	護	兵庫地	同土砂
幽	幽	雜	上	荷	基	頭	波	堤(既	岸	先	假置
內	沈	內	沈	部	重	部	基	成)		地	費
充	置	費	均	置	石	基礎	基礎	計		費	費
二八〇	三〇九	三〇九	三七〇	三〇九	四二二		六三二		七〇	一六三	二六、八二四
△	△	△	△	△	△		一四八三、三八九	△×	×	×	立坪
一一三	一二二	二五八	二五七	一八、七一五	一、二二、八〇七		二九、一七五	二四八、四七一	三九、二三四	一、一五、二一四	二、七七五
二二二	三二二	三四二	四六六	三二二	八〇七		二七九	二七九	五、三七五	四九、二一四	△×
○二	○二	○二	○二	○二	○二		一九三、五七五	一九三、五七五	一、二〇三九	四八、五六三	九二五
一〇七	一〇七	一三一	一三六	一三一	一一八		一九三	一九三	二、四三〇	六七、三三〇	一〇、六七三
△	△	△	△	△	△		一九〇	一九〇	六、二七八五	六三〇	六三〇
三四一	六〇六	七七九	七七九	四、三一五	一〇、六五八		一九〇	一九〇	三六九、四一九	一〇七、八七〇	一八三、三七三
六〇六	六〇六	四六八	四六八	三六八	一〇、六五八		一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	七四四
七八	七八	七七	七七	七七	七七		一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	三、〇四七
四〇〇	四一六	四一六	四一六	四一六	四一六		一九〇	一九〇	一九〇	一九〇	一九〇
△	△	△	△	△	△		一四八三、三八九	△×	×	×	△×
一七二	一七二	一七二	一七二	一七二	一七二		一七九	一七九	一七九	一七九	一八、一八
〇一八	〇一八	〇一八	〇一八	〇一八	〇一八		一七九	一七九	一七九	一七九	四、三九四
九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇		一七九	一七九	一七九	一七九	一七九

土 地 買 收 費	機船 械船 費及				造 築						種 別	數 量	前 年 度 竣 功 高 額	
	營 繕 費	直 計	請 船	直 營	修 理	基 礎	荷 重	雜 物	根 固	方 塊				
	請 計	負 船	營 修	理	據 船	捨 石	費	費	費	費	費	費	費	費
九、四四八	X 二六四、〇三九 三、七四九	X 五五、七九四	X 二〇八、二四五	X 三、四九六、二五四	X 三二、二五	X 三、二四五、三四二	X 二一八、七八七	X 六五七	△X 六四九、六二〇 ○六二五八二	六五	二九四 間	△ 二九九、二三〇九七	△ 三一、一〇三九	△ 二九九、一〇六
	X 二六四、〇三九 三、七四九	X 五五、七九四	X 二〇八、二四五	X 三、四九六、二五四	X 三二、二五	X 三、二四五、三四二	X 二一八、七八七	X 六五七	△X 六四九、六二〇 ○六二五八二	一、二二五	一、二二五	一、二八九〇	一、二八九〇	一、二八九〇
	X 六一 六、一 九七、 二六 七	X 五 一 九六、 六、一 九六、 二四一 五六二 九	X 一、 九六、 六、一 九六、 二四一 五六二 九	X 一〇三、 五八九	X 四〇五 三五	△X 一一六 九〇五 一、一 九六一 三一四 〇二九三	X 二九 一、九五 六、一 九六一 三一四 〇二九三	X 六、二 一五	四九	二五	一〇一 間	△ 八六、一七九	△ 八六、一七九	△ 八六、一七九
	X 八一 九九、 八三、 七〇六	X 一九 九、 八三、 七〇六	X 七一 九六、 一八六	X 四、 六九、 一九三	X 三六、 一七八	▲X 八二、三 一、九三 〇一九 三八七、 七七五	X 二〇 一、九四 四、一 九一〇五	九〇	五五	九〇	三九五 間	△ 三九七、 四一四	△ 三九七、 四一四	△ 三九七、 四一四
	超過 〇・一	超過 〇・一				● 四五		● 〇・〇三				△ 三九七、 四一四	△ 三九七、 四一四	△ 三九七、 四一四
九、四四八	● 〇・〇二											步 竣	合 功	

	直營採取品代	製材費料		採材取費料		臨時手當	雜費	
		混凝土計 計 凝塊 土填 製充 造用	方鐵 內函 函筋 製混 造造	鐵砂 切込 砂砂	設備 割利 礫石		諸惠 死傷 支手	雜給 工手
工事竣功	高	三〇九三六六〇 五八六二 五六箇	五七八〇 二三五	四八四九 七五、一九六	立坪			
× 二七一、三六〇	九、三三三、一八五	□× □× □× □× □× 二一九 二一九 二一九 二一九 二一九 五二七 五二七 五二七 五二七 五二七 〇九〇 〇九〇 〇九〇 〇九〇 〇九〇 二七六 二七六 二七六 二七六 二七六 六三〇 六三〇 六三〇 六三〇 六三〇 七四七 七四七 七四七 七四七 七四七	三〇九三六六〇 五八六二 五六箇	二一九、一八三 二七、一二八 四六八三	一、一〇三八 二九、五九八 七九三一七	七五、一九六	二五、五二八	× 二六三、九五八 三一〇三八〇 三四、八〇〇 二、四四八
		一一一〇〇 二一八一 一六箇	四〇〇	一、一〇三一 一、一〇二八 四六七七	一、一〇二七 一、一〇二七 四八二七	立坪		
× 二二三、二七四	三、四五〇、八〇九	□× □× □× □× □× 三五九七 三五九七 三五九七 三五九七 三五九七 一〇九一 一〇九一 一〇九一 一〇九一 一〇九一 一九二、五三六 一九二、五三六 一九二、五三六 一九二、五三六 一九二、五三六 二四四、四五五 二四四、四五五 二四四、四五五 二四四、四五五 二四四、四五五 四七九一 一九四九 一九四九 一九四九 一九四九 七四九一 一九四九 一九四九 一九四九 一九四九 四九七 一八八一 一八八一 一八八一 一八八一	三〇九三六六〇 五八六二 五六箇	二一〇五四 三七八 三二六	六四、六三二 七九、九八七 三二六	六九、六九二 六九、六九二 六九、六九二	三六、三五二	× 九一、六九二 七一、八〇〇 三一五〇〇 一九三、八五二
		四二六、〇九四 八、〇四三 七二箇	四〇〇	一、一〇四六六 一、一〇五七七 九、六七六	一、一〇五七七 一、一〇五七七 九、六七六	立坪		
× 四九四、六三四	一、一、七八三、九九四	□×— × □× □× □× 三一三 三一三 三一三 三一三 三一三 一七一 一七一 一七一 一七一 一七一 一九六 一九六 一九六 一九六 一九六 五九六 五九六 五九六 五九六 五九六 四八三 一三四 一三四 一三四 一三四 一三四 一三四 一三四 一三四 一三四	一、一〇四六六 一、一〇五七七 九、六七六	一、一〇三〇七 二五、七三七 九、一七六〇	一、一〇九一、一六九 二〇九、一六九 一、一〇九一、一六九	口	二五、五二八	× 三六一、七三〇 五七八、二八一 二一、九八九 五、九四八
		合計						○六八

種 別	前年 度竣 切高		本年 度竣 功高		合 計
	數 量	金 額	數 量	金 額	
總 計					
直營製造品代					
同 残材料代					
	△七二三・八七九 円	□三四一・〇六一	△二八一・三一四 円	□九七・〇三二	△一・〇〇五・〇九三 円
					○・四三
					步 竣 合 功

表中「×」印ハ別設計採取ニ係ル割石及切込砂利等使用代價、△印ハ別設計製造ニ係ル鐵筋混泥土函及各種ノ方塊並函内填充用混泥土ノ使用代價ニシテ以上ハ何レモ當該竣工高中ニ包含スルモノ「□」印ハ各年度ニ於ケル材料採取高及製造高(共ニ竣工金額中ニ算入済ノモノ)中ヨリ使用済ニ係ル金額ヲ控除シタル残數量ニ對スル代價

第七 高松港修築工事

(神戸土木出張所)

緒 言

高松港ハ香川縣ノ中央北部高松市ノ海岸東經百卅四度二分、北緯卅四度廿一分ニ位シ地勢南ニ肥沃ナル讃岐平野ヲ控ヘ東ハ屋島山海中ニ突出シ西方ニ王越半島ヲ望ミ前面ハ女木、男木ノ兩島相連リテ港北ヲ扼ス而シテ北東及北西ハ海路ノ深度大船巨舶ノ航行ニ適シ岡山縣宇野港ヲ距ルコト僅ニ十一浬、四國四縣中最モ形勝ノ地位ヲ占ムル内海ノ要港タリ

高松市ハ今ヲ去ル三百年前即チ寛永年間ヨリ松平氏ノ生駒氏ニ代リテ居城ト爲シタル地ニシテ當時之ヲ玉藻城ト云ヒ附近一帶ノ海濱ヲ玉藻浦ト稱シ船舶出入ノ地ハ地勢上自ラ東濱、堀川、西濱ノ三港ニ分タレ東濱港ハ商船ノ出入ニ充テ西濱港ハ漁業者ノ専用ニ供シ堀川港ハ藩船ノ繫留場タリシガ維新後是等ヲ總稱シテ高松港ト云フ明治卅年七月縣費ノ補助ヲ得高松市ニ於テ修築工事ヲ起シ工費卅貳萬八千餘圓ヲ投ジテ西濱港ノ東、堀川港口ニ於テ水面積約八萬坪ヲ包擁スル東西二條ノ防波堤ヲ築造シ兼テ港內主要部ノ浚渫、堀川港及沿岸ノ埋築、棧橋築設等ノ工ヲ企テ同卅七年九月之ヲ竣工シ以テ現在ノ本港ヲ形成セリ

爾來時勢ノ推移ニ伴ヒ年ト共ニ貨客船舶ノ出入著シク増加シ殊ニ宇野港トノ間ニ船車連絡ノ設備成リ貨車航送ノ實施セラレシ以來本港利用上ニ一新紀元ヲ劃シ更ニ擴張ノ必要生ジタルガ故ニ大正八年香川縣ニ於テハ港灣調査會ヲ設置シ之ガ調査ニ努メ越テ同年六月ニハ内務省ニ於テ本港ヲ第二種重要港灣ニ編入シ尋テ第四十五議會ノ協賛ヲ經テ本港ノ修築計畫全ク樹立シ同十一年度ヨリ十五年度ニ至

ル五箇年間ノ香川縣營繼續事業トシテ工費總額貳百廿萬圓(俸給及事務費拾四萬圓ヲ含ム)ヲ計上シ其二分ノ一ヲ國庫ヨリ補助シ且同時ニ明治卅年法律第卅七號ニ基キ内務大臣ニ於テ本事業ヲ直接施工スルニ至レリ

港狀並計畫大要

一、港 狀

現在ニ於ケル高松港ハ東西兩防波堤ヲ以テ限ラレタル區域内ナレ共從來所謂高松港ナルモノハ東濱港、西濱港其他ヲ包含スルモノニシテ其東端ニ位スル柵陽川ハ水深最モ淺ク大潮時干潮ニ於テ全部川底ヲ露出シ一部ハ貯木場ニ充ツルモ一般船舶ノ出入多カラズ東濱港ハ帆船ノ出入頻繁ニシテ主トシテ農產物及肥料類ノ集散ニ利用セラレ中川港ハ水面積極テ狹ク小船ノ修理及繫留場ニ充ツルニ過ギズ東西兩防波堤ヲ以テ圍マレタル現在高松港ハ其東半部ハ水深淺クシテ荷役ノ設備ヲ缺キ剩ヘ陸上ハ舊城趾ニ遮ラレ運輸交通上ノ不便尠カラズ西半部ニハ縣營ノ棧橋並鐵道棧橋貨車航送ノ設備、共同荷役場、坂出地方專賣局高松出張所在リ港内ハ大小ノ船舶常ニ輻輳ヲ極ム而シテ西濱港ハ單ニ漁船溜ニ過ギズ

本港々外東西二方ハ所謂遠淺ニシテ港口ヨリ沖合ハ急ニ水深ヲ加フ而シテ海底ハ概シテ僅少ノ粘土ヲ含ム細砂(俗稱きられ)ニシテ岩盤無キヲ以テ浚渫鋪定或ハ構造物ノ基礎トシテハ強チ憂フ可キ土質ニ非ラザルノミナラズ土砂ノ移動モ亦大ナラズ波浪平靜ニシテ港外ニ於ケル潮流速度ハ毎時二浬ヲ越ヘズ潮位ハ大潮時平均干満ノ差約八尺四季降雨少ナク氣候溫暖ニシテ夏季稀ニ暴風ノ襲來スルコトアリト雖モ永年ノ記録ニ徵スルニ北々東風卅五米突ハ其最大風速ニシテ冬季ニ在リテハ西南西ノ強風最モ多

二、計畫大要

(イ) 防波堤 新設北防波堤ハ延長四百四十間ニシテ舊東防波堤頭部ヲ起點トシ東濱港地先計畫埋立地前面ニ並行シテ築造シ又新設東防波堤ハ延長三百九十間ニシテ柵楊川河口右岸ヨリ北方ニ向ヒ築造シ前者ノ東端トノ間ニ幅員約四十間ノ副港口ヲ存置シ現在ノ東防波堤ハ全部之ヲ撤去シ又中川港ノ港口北東隅ヨリ突出スル突堤ハ其先端ヨリ廿間ヲ除却シ尙東濱港内ノ突堤二箇所ハ之ヲ除却スルモノトス

(ロ) 埋立 玉藻町地先ニ於テ幅員十間、面積約二千四百坪ヲ平均満潮面上五尺ニ埋立テ(棧橋附近ハ適當ノ幅員ニ埋立)又下横町地先ニ於テ面積約五千坪、八重垣新地々先ニ於テ面積約八千坪ヲ埋立テ荷揚場倉庫道路及鐵道ノ敷地ニ供シ埋立ノ前面ハ水深六尺ノ物揚場護岸トシ其他ハ總テ水深三尺ノ護岸トス

(ハ) 浚渫 港内ノ主要部分水面積四萬餘坪ヲ最干潮面以下十八尺ニ浚渫シ一千五百噸級汽船ノ碇繫場ニ供シ尙港内ヲ各適當ノ水深ニ浚渫ス此浚渫面積總計約十四萬坪、土量約廿三萬坪トス

(ニ) 棧橋 新設棧橋ハ其根元ヲ現在棧橋ノ位置ヨリ東方約二十間ノ地點ニ定メ港口ノ中心ニ向テ築設シ其兩側ヲ利用スルコトヲ得セシメ而シテ現在棧橋ハ必要ニ應ジ適當ノ地點ニ移轉スルモノトス

(變更ニ伴フ工費ニハ増減無キ見込ナリ)

施工狀況

高松港修築工事ハ本年度ノ著手ニシテ同年六月一日修築事務所ヲ高松市濱ノ町二百卅八番地ニ設置シ六月六日定礎式ヲ舉行シ八月一日ヨリ浚渫工事ノ一部ニ著手セリ今左ニ施行工事ノ概況ヲ記述ス可シ一、浚渫工事 本修築工事ハ其年限比較的の短期間ナルヲ以テ可及的諸般ノ施工準備ニ努メタリト雖モ其所要浚渫船等ノ建造ニ就テハ先以テ港内ノ地質其他ヲ詳細ニ調査シ然ル後徐ニ建造計畫ヲ確立スルヲ

適當ト認メ是等ノ参考ニ資スル爲當分ノ内浚渫用船舶一切ハ之ヲ借入使用スルノ方針ニ基キ十一年六月廿九日神戸市勝田埋築株式會社ヨリ鋤簾式浚渫船(能率一時間拾五坪)一艘及曳船一、四坪積側開土運船四、給水船一及石炭運搬船一ヲ賃借シテ爾來專ラ工事ノ進捗ニ努メタリ然ルニ其結果ハ能率猶ホ大ナル浚渫船ヲ運用スルニ於テハ工費ノ經濟上有利ナル可キヲ認メタルヲ以テ同年十一月ニ至リ同社ヨリ更ニ一時間ノ能率貳拾立坪ヲ有スル同型式ノ浚渫船一艘及曳船土運船モ之ニ附隨スルモノト借換ヲ爲シ以テ本年度ニ於ケル浚渫工事ヲ實施シ港内ノ一部及下横町地先ヲ浚渫シ其土砂ハ總テ土運船ニ搭載シ水深及潮位ノ關係上埋立豫定ニ運搬シ得ルモノハ之ヲ埋立地ニ投下シ其他ハ港外女木島沖及沖松島沖合ニ投下セリ而シテ本年度浚渫シタル土量ハ一萬四千九百三坪ヲ算シ内埋立ニ利用シタル土量ハ二千九百九坪ニシテ港外投棄土量ハ一萬一千九百九十四坪ナリトス

二、防波堤築造工事 本工事ハ大正十一年十月五日ヨリ新設東防波堤ノ築造ニ著手シ年度内ニ基礎拾石延長二百七十三間ヲ完成シ之ニ對シ割石九百立坪ヲ使用シタリ

三、雜工事 浚渫工事施行上必要ナルヲ以テ量水標及附屬信號柱ヲ建設シ其他海底ノ耐荷力試驗ヲ施行シタルモノ十五箇所ニ及ビタリ

本年度ニ於ケル工事竣工高ハ拾四萬五千七百五拾參圓ニシテ之ヲ總工費豫算額貳百六萬圓ニ對比スルトキハ約七分一厘ノ竣工歩合ナリトス其工事竣工表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣工高	本年度竣工高	合計
數量	金額	數量	金額
步合			

第八 關門海峽改良工事

(下) 關土木出張所

緒 言

本工事ハ關門海峽整理ノ第一期工事トシテ當初壹千貳百萬圓ノ工費ヲ以テ明治四十三年度ニ起工シ十箇年ニ竣功セシムル豫定ナリシモ財政ノ都合ニ依リ繼續費トセズ同四十三年度以降大正四年度ニ至ル迄ハ年々所要豫算額ヲ要求シ工事ヲ施行シ來リ其額合計參百七拾四萬圓ニ達セシモ大正五年度ニ至リ四百卅六萬圓ノ豫算ヲ以テ同年度以降十二年度ニ至ル八箇年ノ繼續事業ト定メ目下施工中ニ屬スルモノナリ但シ總工費ハ前記八百拾萬圓ノ外大正八年度ニ於テ海底電線移設費卅六萬圓及同年度以降ニ於テ物價騰貴ニ因ル増加額百九拾萬圓ヲ追加セラレタルヲ以テ總豫算額ハ壹千卅六萬圓(俸給及事務費四拾六萬參千四百廿八圓ヲ含ム)ナリトス

港狀並計畫大要

關門海峽ハ本邦ニ於テ最モ須要ナル航路ノ一ナレドモ幅員狹隘不規則且潮流強ク然モ岩礁諸所ニ散在スルヲ以テ航海者ノ常ニ最モ困難ヲ感ズル所ナリトス加之輓近航通船舶ノ增加及船型ノ增大ハ益其困難ノ度ヲ高メ且一面ノ泊地トシテモ亦狹隘ヲ感ズルコト切ナルノミナラズ尙内外貿易ノ發展ニ伴ヒ・港灣修築ノ必要上益之ガ改良ノ急ヲ促スニ至レリ

本海峽ハ將來ヲ慮リ充分ナル計畫ヲ立て之ガ改善ヲ圖ランニハ海峽内ノ航路ヲ水深六尋(一尋ハ六尺)以上ニ浚渫シ其幅員ヲ少クモ三鏈(一鏈ハ七百廿尺)乃至五鏈トシ關門兩港内トモ夫々五尋及六尋ノ水深ヲ保タシメ又岸壁其他港灣トシテノ設備ヲ完フセンニハ其工費頗ル多額ニ上ル可ク且一舉是等ノ工事ヲ

遂行スルノ必要無カル可キヲ以テ先第一期工事トシテ本工事ヲ起シ他ハ漸々追テ施行スルモノトセリ
今計畫ノ概要ヲ記スレバ左ノ如シ

關門海峡第一期工事ハ周防灘ヨリ六連島ニ通ズル航路ノ改良及海峽内泊地ノ擴張ヲ施行セントスルモノニシテ航路ノ改良ニ在リテハ海峽東口部崎沖ヨリ西口塵寄洲ニ至ル十一浬間ヲ幅員二鏈半乃至五鏈半、平均四鏈ニ規定シ水深五尋半ヲ保タシムル爲メ浚渫及除礁工事ヲ施行シ又周防灘ヨリ部崎沖ニ至ル通路計二浬間ハ幅員三鏈、水深五尋半ニ浚渫セントス又泊地ニ關シテハ門司前面ニ於テ水深五尋半以上ノ水面積四十萬坪ヲ得、下關側ニ在リテハ停車場前面ニ於テ十萬坪ノ水面ヲ得ンガ爲メ浚渫工事ヲ施行スルモノトス

施工狀況

本工事ハ起工以來既ニ十三箇年ノ星霜ヲ經、繼續期間ハ今後僅ニ一箇年ヲ餘スノミ而シテ同期間内ニハ到底工事ノ完成ヲ期シ難シ是從來豫算ノ關係上船舶機械ノ完備セザル事及歐洲大戰勃發以來船員職工ノ缺乏、物價勞銀騰貴ニ基ク豫算ノ窮迫等ノ爲メ豫期ノ如ク工事ヲ進捗スルコト能ハザリシニ因ル

本年度ノ事業中門司港、大里沿岸、塵寄洲、彦島沿岸、巖流島附近及滿珠島沖ニ於ケル土砂浚渫ハ十七萬二千餘坪、三ツ瀬、金伏群礁、尼ヶ瀬、鳴瀬、俎瀬、門司港及六連出シニ於ケル碎岩ハ三萬二千餘坪、金伏群礁、尼ヶ瀬、俎瀬及高瀬ニ於ケル碎岩浚渫ハ二萬三千餘坪、彦島埋立ハ二萬六千九百餘坪ナリ今各箇所ニ於ケル狀況ヲ摘記スレバ

門司港 大正八年度迄ニ既ニ干潮面以下卅尺及廿八尺ニ浚了シ九年度ヨリ更ニ全部ヲ卅三尺ニ浚渫中ニシテ本年度ニ於テハ門司洲ノ殘留部分ノ全部及第二區ノ中央部ヲ殆ド浚了シ外字白木崎沖合山脚ノ

突出セル部分(土質礫交り硬粘土)ヲ碎岩船ヲ使用破碎シ尙門司洲ハ急激ナル潮流ノ爲メ漂流性ノ貝殻不
絶竣功跡ニ堆積シ淺所ヲ生ズルヲ以テ面積約八千坪ノ再浚渫ヲ施行シタリ本年度迄ニ既究深度ニ浚了
セシ面積ハ十五萬八千九百餘坪ニ達セリ

彦島沿岸 本箇所ハ山底ノ鼻ヨリ大山ノ鼻ニ至ル區域ニシテ鳴瀬、粗瀬、高瀬其他土砂ヲ冠シタル岩盤或
ハ粘土盤所々ニ點在スルヲ以テ其土砂及軟粘土ニ屬スル部分ハ浚渫船ヲ以テ浚渫シ岩盤及硬粘土盤ハ
碎岩船ヲ使用破碎シタル後浚渫ヲ施シ金ノ弦岬ヨリ大山ノ鼻ニ近ク水深卅尺、面積約六十坪餘ノ小區域二箇所及舊鳴
瀬立標附近ニ於テ水深卅尺内外、面積約一千坪(碎岩濟)ノ三箇所ヲ除クノ外總テ卅三尺ニ竣了シ次回ノ浚
渫ニテ全部完了ノ見込ナリ金ノ弦岬ヨリ大山ノ鼻ニ至ル區域ハ本年度中最モ作業ニ努メタル箇所ニシ
テ其沖側大半ハ卅三尺ニ達シ地側法線ニ接スル部分モ相當深度ヲ増シタリ高瀬ハ前年度ニ於テ比較的
廣大ナル碎岩作業ヲ施工セシ爲メ本年度ニ於テハ極力之ガ浚渫ヲ行ヒ其大部分ヲ卅三尺ニ達セシメ殘
部分ハ今一回ノ碎岩並浚渫ニテ大體浚了スルニ至ル可シ

塵寄洲 本洲ハ土質細砂ニシテ作業容易ナルモ本年度ニ於テハ工事ノ都合上短時日ノ作業ニ過ギズシ
テ前年度來ノ施行高ヲ合セ約六步八厘ノ竣功ナリ

六連出シ 本瀬ハ大部分竣功シ一部硬粘土及岩盤ニ屬スル部分ハ本年度ニ於テ碎岩船ヲ使用シテ破碎
シタルモ工事ノ都合上短時日ノ作業ニ止マリ竣功ニ至ラズト雖モ其大部分ハ竣成セリ

巖流島附近 三ツ瀬ノ岩礁ヲ含ム一帶ノ區域ニシテ土砂浚渫ヲ要スル燈臺以西ニ於テ面積八千餘坪ヲ
卅三尺ニ浚了シタル結果其東西兩端ニ於テ水深廿八尺乃至卅尺ノ僅少ナル部分ヲ残スノミトナリ燈臺
前面ニ於ケル三ツ瀬ノ殘留部分ハ面積約四千坪ノ碎岩ヲ施工シタルモ年度内浚渫スルニ至ラズ

滿珠沖 本年度ニ於テ初テ著手セル箇所ニシテ最南端ニ位スル航路ノ東方面積約一萬七千坪ヲ卅三尺ニ浚了セリ

金伏群礁 本群礁中ノハグノ瀬、野山瀬及北細瀬ハ全部卅三尺ニ浚了シ、スキアガリ瀬、高芋瀬、南細瀬及立標北側ハ殆ド浚了ニ近ヅキ僅ニ一小部分ヲ残スノミトナリタルニ依リ明年度ニ於テハ是等殘部分ヲ浚了シ立標ヲ除却スル見込ナリ

彦島埋立 約八割八分ノ竣工ニ達セリ

本年度關門海峽改良工事竣工高ハ百六萬五千參百廿六圓(事務費及現在物品代價ヲ除ク)ニシテ起工以來ノ累計九百拾六萬參千貳百卅圓ニ達シ既定工費豫算高九百八拾九萬六千五百七拾貳圓(事務費ヲ除ク)ニ對シ九割三分ノ竣工ニ當ルモ歐洲大戰勃發以來物價勞銀騰貴ノ結果功程ハ之ニ伴ハザルニ依リ目下豫算増額及年度延長ノ計畫中ナリ左ニ工事竣工表ヲ掲グ但シ表中「△」印ハ浚渫工事ニ依リ直接埋立地ニ投棄シタル坪數、「○」印ハ評價品價額等ナリ

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計
	數	量	金額	數	
浚渫碎石	一、三三三、二九七 △	一、三三三、二九〇 △	一、一五〇、六、五一二 △	一、一五〇、九〇九 △	二、一〇〇、六五
彦島埋立	一、八八二、七三 △	一、八八二、七三 △	一、二二六、四五三 △	一、二二六、四五三 △	二、一〇〇、六五
其他埋立	一、三八、七五四 △	一、三八、七五四 △	一、二二七、七八八 △	一、二二七、七八八 △	一、二二七、七八八 △
埋立及	一、六二、八四一 △	一、六二、八四一 △	一、二四、一六九 △	一、二四、一六九 △	一、二四、一六九 △
● ●	三三九、五〇四 △	三三九、五〇四 △	二、二二七、七八五 △	二、二二七、七八五 △	二、二二七、七八五 △
● ●	二六二、九五五 △	二六二、九五五 △	一、一九、一六九 △	一、一九、一六九 △	一、一九、一六九 △
● ●	一、六四、六八一 △	一、六四、六八一 △	一、三九四、九〇六 △	一、三九四、九〇六 △	一、三九四、九〇六 △
● ●	一、六二、八四一 △	一、六二、八四一 △	二、一四、八八六 △	二、一四、八八六 △	二、一四、八八六 △
● ●	一、六二、八四一 △	一、六二、八四一 △	一、一六四、七、九六八円 △	一、一六四、七、九六八円 △	一、一六四、七、九六八円 △
● ●	一、六二、八四一 △	一、六二、八四一 △	三、一二二、二八六 △	三、一二二、二八六 △	三、一二二、二八六 △
● ●	一、六〇、九二六五 △	一、六〇、九二六五 △	七一八、四一 △	七一八、四一 △	七一八、四一 △
● ●	一、六〇、九二六五 △	一、六〇、九二六五 △	一、二三四、五三三 △	一、二三四、五三三 △	一、二三四、五三三 △
● ●	一、六二、七四五 △	一、六二、七四五 △	〇・七六 △	〇・七六 △	〇・七六 △
● ●	〇・八八 △	〇・八八 △	〇・六四 △	〇・六四 △	〇・六四 △

總計	護岸 護防	海底電線移設	船測量	船舶及機械	營業費	潮汐費	其他及	當費
	一七九、二〇六八	三五、六〇八	四、八、五九七	一二六、五一〇	二八、六二四	一〇八、七〇一	三六、五七〇五	四九、九二六
△ 八、 四〇 二三七、 〇九 七〇 一四								
	一、四八五	二三、八〇六	四五、三五四	二、七八〇五	三、五七八	一、八〇五	一、八〇五	一、八〇五
△ 一〇六、 五〇 三二 四六								
	一八一、二〇六三	三七、四〇三	五、三一、 一二四、五七六九	一二六、〇二六	二八、六二四〇	八、〇五八六	一、四九、〇八	三七、四〇二
△ 九、 四一六、 三三、 一四三〇								
○·九三								

第九 門司港修築工事

(下關土木出張所)

緒 言

本工事ハ總豫算五百廿五萬圓(内工費五百五萬圓、事務費廿萬圓)ヲ以テ大正八年度ヨリ同十五年度ニ至ル八箇年繼續事業トシテ施行スルモノナリ

港狀並計畫大要

門司港ハ夙ニ世界交通ノ要衝ニ當リ船舶出入ノ頻繁ナル實ニ本邦諸港ノ首位ヲ占ム是ヲ以テ同港ノ貿易ハ年々堅實ニ發達シ加フルニ海峽整理工事ノ進捗ト北九州工業ノ勃興トハ益本港ノ真價ヲ發揮セシムルニ至リタリト雖モ繫船及荷役ノ設備ニ至リテハ何等見ル可キモノ無ク貨物ノ殆ド全部ハ沖荷役ニ依リ處分セラルハノ狀況ナルヲ以テ海陸聯絡ノ設備ヲ完成スルコトハ寔ニ焦眉ノ急ニ屬ス是本工事ノ因テ起リシ所以ナリ今計畫ノ大要ヲ記スレバ左ノ如シ

一、白木崎ヨリ北東ニ向ヒ幅五十間、延長七百廿間ヲ平均最大干潮位以上十三尺ニ埋築シ其前面ニハ水深卅三尺ノ繫船壁ヲ築造シ以テ外國貿易用ニ充ツ

一、現在第一船溜ノ陸舌ヲ撤去シ之ニ換ルニ冲合五十間ノ所ニ岩壁兼用ノ防波堤ヲ築キ其外側ニ水深廿四尺ノ岩壁ヲ設ケ中國通定期船二艘若クハ三千噸級船一艘ノ繫留ニ便シ内側ハ水深十二尺ト爲シ大型艤船ノ使用ニ供シ船溜内ハ其一部ヲ埋立テ物揚場トシ既成稅關埋立地ト共ニ鐵道ノ聯絡ヲ圖ラントス其他護岸ノ水深ハ八尺トス

一、前記防波堤ト外國貿易用埋立地トノ間ニ介在スル延長百七十五間ヲ以テ鐵道關門聯絡渡船及公私汽

艇用ノ繫留棧橋設置箇所ニ充テ尙其沿岸幅十間ヲ埋築シ之ヲ道路敷ニ充ツ而シテ護岸ハ總テ水深八尺ヲ保タシム

一、白木崎以南外國貿易用埋立地ニ接シテ現在海岸ニ並行シ沖合幅五十間、長四百六十間ヲ埋立テ在來貯炭場ヲ此處ニ移轉シ其前面ニ水深十二尺ノ岸壁ヲ築キ石炭ノ荷役ニ供セントス

一、前記新貯炭場西南端鐵道省埋立豫定地ノ前面ニ當リ十二尺岸壁見通シ延長線内ニ長三百七十間ノ防波堤ヲ築造シ以テ船船ノ碇泊ニ便テラシメントス

施工狀況

本年度ニ於テ施行シタル主要工事ハ岸壁、防波堤及埋立ニシテ主力ヲ岸壁工事ニ傾注セリ施工狀況ハ左ノ如シ

第一號岸壁工事 ハ石炭取扱所全長四百六十間ニ瓦ル十二尺岸壁工事ニシテ大正八年六月ノ起工ニ係リ基礎工事ノ進捗ニ伴ヒ本年度内ニ兩四十箇ヲ据付ケ累計七十六箇延長三百八十間ノ据付ヲ了セリ而シテ是等据付タル兩ノ内部ハ前半ハ混擬土、後半ハ土砂ヲ以テ填充スルモノニシテ裏込及頂部混擬土工ト共ニ兩据付ニ伴ヒテ進工シ笠石ノ据付ヲ了シ完成シタル部分卅四間五分ニ達シ來年度ニ於テ全部完成スル豫定ナリ

第二號岸壁工事 ハ外國貿易部全長七百廿間ニ瓦レル卅三尺岸壁工事ニシテ大正十年一月其東端ヨリ工ヲ起シ本年度内ニ据付タル兩數六箇、累計十八箇延長百八十九間ノ据付ヲ了セリ而シテ是等据付タル兩ハ順次内部ノ填充ヲ行ヒ頂部混擬土、階段、防舷材、繫船柱、裏込等ノ工事ヲ施行シ東端部約百間ハ笠石工未了ナルノミニシテ殆ド竣工シ後方ノ埋立亦完成セリ本岸壁區域ノ東端ヨリ約五百間ノ間ハ後方一帶

貯炭場ニシテ前記新石炭取扱所ノ工事竣工前之ガ前面ヲ閉塞スルニ於テハ石炭積卸ノ途ヲ絶チ一般經營上ノ影響少ナカラザルヲ以テ東端岸壁ハ約百五十間ニ止メ更ニ西端部ヨリ函ノ据付ヲ開始セリ。

第三號岸壁工事　ハ外國貿易部ノ東方内國貿易部全部ニ瓦ル岸壁工事ニシテ先以テ外國貿易部東端折曲リ箇所ニ於ケル小蒸氣船繫留所延長五十一間ヲ八尺岸壁トシL型塊ヲ並列築造スルモノニシテ十年五月起工シ本年度ニ於テハL型塊卅六箇、方塊廿三箇ヲ据付ケ裏込等ヲ施行シ略ホ完成セリ
防波堤工事　大正十年一月工ヲ起シ引續キ捨石工ヲ施行セリ

函製作工事　本工事ハ岸壁及防波堤用函ヲ製作進水スル工事ニシテ大正九年六月起工シ本年度内ニ十二尺岸壁用函ハ卅五箇ヲ製作シ前年度進水未了ノ分ヲ併セ四十箇ヲ進水セシメ卅三尺岸壁用函ハ七箇ヲ製作シ内六箇ヲ進水セシメタリ

塊製作工事　本工事ハ岸壁用L型塊及隅角用方塊ヲ製作セントスルモノニシテ大正十年六月著手シ本年度ニ於テハ岸壁工事ノ都合上L型塊五箇ヲ製作セシニ過ギズ

埋立工事　本工事ハ各岸壁及護岸内部ノ埋立全部ヲ施行セントスルモノニシテ大正八年九月先づ石炭取扱所ノ埋立ニ著手シ次デ外國貿易部ノ埋立ヲ開始シ本年度ニ於テ三萬二千三百五十立坪ヲ埋立累計六萬一千五百九十立坪ノ埋立ヲ了セリ而シテ埋立土砂ハ主トシテ關門海峡改良工事ニ於テ浚渫シタル土砂ヲ利用スルモノニシテ其一部ハ運搬船ヨリ直接埋立地内ニ投棄セシメ大部分ハ一旦埋立地前ニ投棄セシメ唧筒式浚渫船ヲ使用シテ埋立地ヘ吸揚送入セリ

此外工事用割石、砂利、砂ヲ直營採取セリ

本年度工事竣功高ハ六拾四萬八千卅九圓(事務費及現在物品代價ヲ除ク)ニシテ起工以來本年度迄ノ累計

ハ貳百拾壹萬八千參百九拾四圓トナリ之ヲ總豫算額五百五萬圓ニ比スレバ四割二分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中△印ハ評價品價額等ニシテ岸壁及防波堤費中ニハ國製作工場設備費、型枠費及雜石、砂利、砂採取費、工事用諸機械運轉費其他ヲ含ム

及 壁 岸		二十 壁 岸 尺 三 卅		種 别		前 年 度		迄 竣 功 高		本 年 度		竣 功 高	
國 地 捨 床 國 裏 繫 防 階		國 地 捨 床 國		國 地 捨 床 國		數 量		金 額		數 量		金 額	
據 形		製 船 舷		國 內 填 充 混 凝 土		據 形		製		數 量		金 額	
付 均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作		數 量		金 額	
均 石 捜 作		均 石 捜 作		均 石 捜 作									

第一〇 長崎港修築工事

(下關土木出張所)

緒 言

本工事ハ長崎市ノ事業ヲ内務大臣ニ於テ直接施行スルモノニシテ總工費豫算百五拾萬圓内七拾五萬圓ハ國庫補助ニ屬シ大正九年度ヨリ同十一年度ニ至ル三箇年間ノ繼續事業ナリシガ本年度ニ於テ更ニ工費九拾萬圓ヲ追加シ工期ヲ二箇年延長シ大正十三年度迄ニ竣工セシムルモノトス即チ總工費豫算ハ貳百四拾萬圓ニシテ内工費貳百廿七萬壹千圓、事務費拾貳萬九千圓ナリ

港狀並計畫大要

本港ハ九州西岸ニ位シ地形深ク東北方ニ灣入シ四時風浪穩ニシテ我國ニ於ケル天然無比ノ良港ナリト雖モ内外通商貿易ノ發達ハ次第ニ出入船舶ノ増加ト共ニ船型ノ增大ヲ來シ到底天然ノ形勝ノミニ委ス可カラザルニ至リ明治卅年ヨリ同卅七年ニ瓦リ國費ノ補助ヲ得テ港内ヲ浚渫スルト同時ニ沿岸ヲ埋築整理シ港灣トシテ稍其面目ヲ一新セリト雖モ水陸聯絡ノ設備ニ至リテハ殆ド之ヲ闕キ泊地亦狹少ニシテ輓近商工業ノ急激ナル發展ノ爲メ出入貨物增加シ殊ニ歐洲大戰ノ結果支那南洋方面トノ航通漸次頻繁ヲ加フルニ至リ到底從來ノ設備ヲ以テ甘ズ可カラザルニ至レリ是本計畫ノ因テ起リシ所以ナリ今計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

一、出島沿岸　長二百卅間、幅平均廿五間ヲ干潮面上十四尺ニ埋立テ其前面ニ水深卅尺ノ岸壁ヲ築造シ八千噸級汽船二艘又ハ五千噸級汽船三艘ノ接岸ニ便セシメ兩側面ニハ廿九間二分宛ノ斜面荷揚場ヲ設クルモノトス

一、元船町沿岸 長三百間、幅平均廿七間ヲ干潮面上十四尺ニ埋立テ其前面ニハ水深九尺ノ岸壁ヲ築造シ小型汽艇ノ接岸荷役ニ便セシム

一、埋築地上ニ施設ス可キ鐵道其他ノ諸設備ハ總テ後日ノ經營ニ俟ツモノトス

一、港内第一區内ニ於テ面積約十萬坪ヲ水深卅尺ニ浚渫シ同水深以上ノ水面積約卅萬坪ヲ約四十萬坪ニ擴大セントス

施工状況

本年度ニ於テ施行シタル工事ハ岸壁用函製作工場設備、函製作、岸壁、埋立及浚渫等ニシテ出島卅尺、岸壁二百卅間ノ内八十五間ハ内部埋立ト共ニ完成シ日支連絡定期船ノ繫留ニ利用シ得ルニ至レリ其施工状況左ノ如シ

函製作工場設備工事 ハ岸壁用ノ函製作設備ヲ爲スモノニシテ前年度迄ニ大體竣工シ本年度ニ於テハ只進水用鋼取柱ヲ設置シ完成ヲ告ゲタリ

函製作工事 ハ前年度ニ引續キ卅尺岸壁用函ノ製作ニ從事シ本年度内ニ於テ上層函廿四箇、下層函廿三箇ヲ作製進水セリ前年度ヨリノ累計ハ製作高上層函卅六箇、下層函卅五箇、進水高上層函卅三箇、下層函卅二箇ナリ今後ニ於テ上層函一箇ヲ製作セバ卅尺岸壁用函ハ完了スル筈ナリ

出島岸壁工事 前面二百卅間ノ内南端ヨリ長八十五間完成シ南側折曲リ箇所ノ護岸ハ斜面荷揚場石張ノ一部ヲ殘シタルノミニシテ殆ド完成セリ其他ハ部分竣工若クハ工事中ニシテ明年度ニ於テ全部完了ノ豫定ナリ

元船町岸壁工事 ハ大正十一年十一月其工ヲ起セシモ出島岸壁及埋立工事ノ進捗ヲ計リシ爲メ僅ニ床

掘工事長百十間ノ四歩通リ此坪數一千三百立坪ヲ浚渫セシニ過ギズ

浚渫工事 ハ玉浪丸大正十一年三月中旬ヨリ浚渫船修理ニ著手シ六月中旬竣功セシヲ以テ直ニ本工事ニ使用シ尙九月ヨリ唧筒船木曾川丸ヲ併セ使用施行セシガ十二月中旬ヨリ兩船共埋立工事ニ使用セシヲ本工事ハ一時中止シ三月初旬ヨリ更ニ玉浪丸ヲ使用施行セリ本年度ニ於ケル浚渫坪數ハ一萬八千四百立坪ニシテ累計一萬九千五百六立坪ナリ

出島埋立工事 本工事ハ卅尺岸壁内部ノ埋立ヲ爲スモノニシテ大正十一年十一月起工セシガ港内浚渫土砂ハ主トシテ沈土ニシテ夫レノミニテハ埋立ノ目的ヲ達シ難キニ依リ港外小瀬戸ニ於テ鋤簾式浚渫船玉浪丸ヲ使用シテ砂ヲ浚取運搬シ唧筒船木曾川丸ヲ使用シテ埋立地ニ搬入セシメ二月末ニ至リ岸壁完成部分八十五間ニ對スル内部埋立ヲ完了セリ此面積二千五百四十八坪、立坪一萬八千八百四十五坪ナリ

其他工事用砂、砂利等ノ直營採取及基礎試験工事等ノ如キ雜工事ヲモ施行セリ

長崎港修築工事ノ本年度竣工高ハ五拾五萬九千七百八拾圓(事務費現在物品代價ヲ除ク)ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ百壹萬六千貳百壹圓ナリ即チ總工費豫算額貳百廿七萬壹千圓ニ對シ四割五分ノ竣工ナリ其工事竣工表ハ左ノ如シ但シ表中岸壁ノ金額中ニハ函工場設備費、型枠費及砂利、砂等ノ採取費ヲ含ム又表中△印ハ評價品價額

種別	前年度迄竣工高			本年度竣工高			合計
	數	量	金額	數	量	金額	
函 製 作	未竣功力	三九四		未竣功力	二三三		
	竣功	三三三		竣功	一		
	未竣功力	三一三		未竣功力	〇九八	四分	
	竣功	一		竣功	一		
	合			合			

總 計	浚船營雜 及繕機械 費費	出島埋立 船及機械 費費	岸	
			尺元 岸壁 張場 所詰 掘石	護上 方地 混土 塊均 捨防 形込 舷
一 △ 四五、六四二 五一	一 △ 二二、九四四 四、二九七 五七	一 △ 八、三六八 二〇一、八〇 立	一一〇六 八、三六八 一八、四〇〇 一八、八四四、九 立	一一〇六 八、三六八 一八、四〇〇 一八、八四四、九 立
一 △ 五五、九三七 三四八、五〇 五〇	一 △ 二二、九八八 七六六 二二、七四二 二二	一 △ 三七、九六六 三九、五〇五 一九、五〇六 一九、八四四、九 立	一一〇六 三七、九六六 三九、五〇五 一九、五〇六 一九、八四四、九 立	一一〇六 三七、九六六 三九、五〇五 一九、五〇六 一九、八四四、九 立
一 △ 一〇一 一六、三二 三五〇 〇一	一 △ 四四、九三二 五、〇六三 三三三、五四九 二四九	一 △ 三七、九六六 四七、八七三 三七、九六六 三七、九六六 立	一一〇六 三七、九六六 四七、八七三 三七、九六六 三七、九六六 立	一一〇六 三七、九六六 四七、八七三 三七、九六六 三七、九六六 立
○・四五		○・二九 ○・五五	○・一四 ○・四〇 ○・五〇 ○・五〇 ○・五〇 ○・五〇 ○・三〇	○・一四 ○・四〇 ○・五〇 ○・五〇 ○・五〇 ○・五〇 ○・三〇

第一一 下關港修築工事

(下關土木出張所)

緒 言

本工事ハ總豫算參百六拾壹萬圓(内工費參百四拾萬圓、事務費廿壹萬圓)ニシテ其年額ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正十年度ヨリ同十六年度ニ至ル七箇年間ノ繼續事業トシテ施行スルモノトス

港狀並計畫大要

下關港ハ本邦西部ノ要港ニシテ古來殷賑ヲ極ムト雖モ水深淺ク泊地狹隘ニシテ大船巨舶ヲ容ル、ニ足ラズ殊ニ水陸聯絡設備ニ至リテハ一部鐵道構内沿岸ヲ除キ殆ド之ヲ闕キ輓近内外貿易ノ急激ナル發達ニ伴フ出入船舶ノ増加ト船型ノ增大ハ最早天然ノ形勝ノミニ依ルヲ容サマルニ至レリ然レドモ時運ノ趨勢ト財政ノ狀態ハ未ダ遽ニ大計畫ノ施設ヲ容ル、能ハザル可キヲ以テ暫ク之ヲ他日ニ譲リ先以テ焦眉ノ急ニ應ズル程度ニ於テ修築工事ヲ施行セントス其計畫ハ大要左ノ如シ

一、停車場以東ニ屬スル部分ハ内外貿易用ニ充ツルモノニシテ其東端ハ内務省埋立地ニ接續シ現在海岸ニ沿ヒ幅卅間内外ヲ干潮面以上十三尺五寸ニ埋立テ其前面ニハ東端ヨリ干潮面以下九尺岩壁長百四十七間、十八尺岸壁長百廿五間、廿四尺岸壁長三百廿八間ヲ設ケ廿四尺岸壁ノ西端延長線ニ沿ヒ長六十五間ノ防波堤ヲ設ケ其内部ヲ船溜ニ充テ現在海岸ニ沿ヒ十二尺岸壁長百八間、六尺岸壁長二百廿五間ヲ築造スルモノトス

一、停車場以西ニ屬スル部分ハ漁港ニ充ツルモノニシテ下關驛ノ西端貨車航送船發着場ノ北方護岸ニ接續シ中間ニ於テ幅六十間内外ヲ干潮面以上十三尺五寸ニ埋立テ其前面ニハ中央百八十六間ニ十八尺岸

壁ヲ東部ニハ九尺岸壁百一間五分、西部ニハ六尺岸壁九十一間ヲ築造スルモノトス
一、埋立面積總計四萬一千六百坪ニシテ内東部二萬五千餘坪、西部一萬六千五百餘坪ナリ而シテ埋築上ニ
施設ス可キ倉庫、上屋、鐵道、道路、其他ノ諸設備ハ總テ後日ノ經營ニ俟ツモノトス

一、岸壁前面ハ總テ岸壁深ト同深ニ浚渫シ尙停軍場以西部分前面ニ横ハレル淺洲ハ干潮面以下十尺ニ同
部分ト關、釜聯絡船航路ノ間ニ介在スル淺洲ハ同十八尺ニ浚渫スルモノトス

施工状況

本工事ハ前年度ノ起工ニシテ同年度及本年度共豫算ノ配付僅少ナリシ爲メ主トシテ土工機械ノ購入及
準備作業ニ著手シタル外本工事トシテハ僅ニ浚渫及床掘工事ノ一部ヲ施行シ岸壁基礎工事並函製作ニ
著手シタルニ過ギズ其施工状況左ノ如シ

岸壁工事 大正十一年二月西部十八尺岸壁全長百八十六間ノ床掘工事ヨリ起工シ前年度ニ於テハ專ラ
碎岩船ヲ使用シテ岸壁線内ニ於ケル硬土盤ヲ破碎シ本年度ニ入り浚渫ニ著手シ同區域ノ床掘ヲ完了シ
十二年一月捨石ヲ開始シ三月地形均ニ著手セリ

函工場設備工事 本工事ハ岸壁及防波堤用函塊製作ノ便宜上門司港修築工事用函工場内ニ併置スルモ
ノニシヲ同工場内ノ一部ニ假護岸ヲ施シ進水臺一臺及十二尺、十八尺、廿四尺、各岸壁用函製作臺二臺宛並
起重機ノ基礎工事等ヲ施行スルコト、シ十年九月工ヲ起シ年度内ニ於テ進水臺一臺、十八尺函製作臺二
臺、起重機基礎工事及假護岸等ヲ完成シ廿四尺函製作臺ノ製作ニ著手セリ

函製作工事 本工事ハ岸壁及防波堤用函ヲ製作進水スルモノニシテ大正十年十二月工ヲ起シ十八尺岸
壁用函型枠二組ノ製作ニ著手シ本年度ニ於テ殆ド完成シタルニ依リ之ヲ使用シテ函二箇ヲ完成シタル

モ未ダ進水スルニ至ラズシテ年度ヲ送リ尙此外廿四尺岸壁用函型枠ノ製作ニ著手セリ

浚渫工事 前年度ニ引續キ第二號碎岩船、浚渫船、與次丸、敦賀丸及第二號「プリストマン」ヲ使用シ西部十八尺岸壁前面ノ碎岩及浚渫、彦島埋立地前面淺洲ノ東南隅下關驛貸車航送船發着場前面驛ノ東方船溜内等ノ浚渫ヲ施行シ此浚渫坪數一萬四千四百坪、破碎坪數三千七百餘坪ニ達セリ

右ノ外工事用割石、砂利、砂ハ總テ直營採取シ尙工事施行用諸機械ノ運轉等ヲ施行セリ

本年度ニ於ケル下關港修築工事ノ竣功高ハ廿七萬七千七百九拾四圓ニシテ起工以來ノ工費累計四拾萬參千八百拾七圓、總工費豫算額參百四拾萬圓ニ對シ一割二分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中△印ハ評價品價額ニシテ岸壁及防波堤費中ニハ函製作工場設備費、型枠費及砂利、砂採取費等ヲ含ム

第一二 境港修築工事

(下關土木出張所)

緒 言

本工事ハ鳥取縣ノ起業ニ係リ總豫算百八拾萬圓(内工費百六拾八萬六千圓)ニシテ其半額ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正十一年度ヨリ同十六年度ニ至ル六箇年間ノ繼續事業ナリ而シテ其工事ハ明治卅年法律第卅七號ニ依リ國ニ於テ直接施行スルモノトス

港狀並計畫大要

境港ハ日本港ニ於ケル樞要港灣ニシテ山陰唯一ノ天然良港タリ殊ニ朝鮮及西比利亞方面トノ通商貿易上至便ノ位置ニ在リト雖モ港口常ニ砂洲ノ爲メ閉塞セラレ水陸聯絡亦不完全ナルヲ以テ從來之ガ利用ヲ完フル事能ハズ明治四十一年航路維持ノ爲メ長一千四百五十四米五ノ捨石堤ヲ施シ同時ニ航路ヲ浚渫セシモ其效果完カラズ又明治卅七年ニハ物揚場トシテ市街沿岸長一千四百十八米二、平均幅三米六四ヲ埋築セシモ唯小船舶ノ繫留ニ適スルニ過ギズ輓近出入船舶ノ増加ト船形ノ增大ハ最早現狀態ニ委スルヲ許サザルニ至レリ殊ニ近來山陰線ノ工事モ著々進捗ヲ見陰陽連絡モ亦目睫ノ間ニ逼レルヲ以テ本港ハ更ニ重要ノ地位ヲ占ムルニ至ル可ク之ガ修築ハ一日ヲ緩フス可カラズ是本計畫ノ起リシ所以ニシテ其計畫ノ大要ハ次ノ如シ

一、埋立 停車場地先ニ於テ長四百十八米、幅卅六米内外ノ水面ヲ干潮面上一米五ニ埋立ツルモノトス
一、岸壁 埋立地ノ前面ニ干潮面以下六米四、岸壁二百七十三米、同五米五、岸壁九十一米ヲ設ケ一千噸級乃至二千噸級ノ船舶四艘ヲシテ同時ニ繫留セシムルヲ得ルノ用ニ供シ其他ノ沿岸五十四米ハ物揚場及護

岸トス

一、防波堤 御臺場鼻ヨリ南方二百十八米ノ海岸ニ起リ東方ニ向ヒ延長八百卅六米ニ至リ直角ニ北折シテ延長三百八十二米ニシテ舊捨石堤ニ連續セシメ且該堤ヲ利用増築シ更ニ其尖端ヲ延長シテ一千七百米ニ至リ七米三ノ水深ニ達セシム其延長二千九百十八米ナリトス

一、浚渫　埋立地前面ノ水面約十九萬八千三百四十七平米ヲ浚渫シ船舶繫留ノ用ニ供シ之ニ通ズル航路トシテ延長四千三百六十四米ノ幅九十二米乃至百八十二米ヲ干潮面下六米四乃至七米三ニ浚渫スルモノトス此浚渫總面積約卅八萬三千四百七十一平米、土量百二萬九千立米ナリ

施工狀況

本工事ハ大正十一年九月ノ起工ニシテ器械購入準備トシテ事務所敷地地均工事ヲ爲シ方塊工場設備工事ニ著手シタル外施工ニ必要ナル測量ヲ爲シタルノミ

本年度ニ於ケル境港修築工事ノ竣功高ハ參萬九千七百八拾五圓ニシテ其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高額	本年度竣功高額		合計
		數量	金額	
方塊工場設備工事費	一九〇二三	一九〇二三	一九〇二三	三九、七八五
船舶及機械費	一九〇二三	一九〇二三	一九〇二三	三九、七八五
營繕費	一九〇二三	一九〇二三	一九〇二三	五、五四
雜費	一九〇二三	一九〇二三	一九〇二三	五、五四
總計	一九〇二三	一九〇二三	一九〇二三	三九、七八五